

# 感染症発生動向調査事業報告書

－平成30年版－

山梨県感染症情報センター



## 目 次

I	事業概要	
1	感染症発生動向調査事業	1
2	対象感染症	2
3	地域区分と定点医療機関数	4
II	患者発生状況	
1	全数把握対象感染症	5
2	定点把握対象感染症	5
2-1	インフルエンザ定点から報告された感染症	7
	○インフルエンザ	7
	(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	
2-2	小児科定点から報告された感染症	9
	○RSウイルス感染症	10
	○咽頭結膜熱	11
	○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12
	○感染性胃腸炎	13
	○水痘	14
	○手足口病	15
	○伝染性紅斑	16
	○突発性発しん	17
	○ヘルパンギーナ	18
	○流行性耳下腺炎	19
2-3	眼科定点から報告された感染症	20
	○急性出血性結膜炎	20
	○流行性角結膜炎	21
2-4	性感染症定点から報告された感染症	22
	○性器クラミジア感染症	22
	○性器ヘルペスウイルス感染症	23
	○尖圭コンジローマ	24
	○淋菌感染症	25
2-5	基幹定点から報告された感染症	26
	○細菌性髄膜炎	27
	○無菌性髄膜炎	28
	○マイコプラズマ肺炎	29

○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）	30
○ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）	31
○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32
○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	33
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症	34
Ⅲ 病原微生物検出状況	
1 ウイルス検出状況	35
2 細菌検出状況	36
Ⅳ 参考資料	
1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧	37
2 全数把握対象感染症の報告数	39
2-1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の 改正に伴う変更の経緯	40
3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数	41
4 前年（平成 29 年）との定点当たり報告数の比較	42
5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移	43
6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表	44

# I 事業概要



## 1 感染症発生動向調査事業

本事業は昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、システムのオンライン化や対象疾病等の充実・拡大がされ、運用されてきた。

平成11年4月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）施行により、感染症発生動向調査が感染症の発生及びまん延の防止を目的として感染症施策の一つとして位置づけられ、「感染症発生動向調査事業要綱」に基づき実施されている。

平成19年4月の感染症法の改正により、発生動向調査の対象疾病の類型の見直しや結核予防法との統合等大幅な変更があり、その後、平成20年1月には「風しん」及び「麻しん」が五類感染症の定点把握の対象から五類感染症の全数把握対象疾病に変更された。同年5月には「鳥インフルエンザ（H5N1）」が二類感染症疾病に追加されるとともに、感染症の類型に新型インフルエンザ等感染症が追加された。

平成23年2月には「チクングニア熱」が四類感染症に、「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が五類感染症（定点）疾病にそれぞれ追加された。

平成25年3月から「重症熱性血小板減少症候群（病原体がSFTSウイルスであるものに限る。）」が四類感染症疾病に、同年4月から「侵襲性インフルエンザ菌感染症」「侵襲性髄膜炎菌感染症」「侵襲性肺炎球菌感染症」が五類感染症（全数）疾病に追加され、「髄膜炎菌性髄膜炎」は削除された。更に同年5月から「鳥インフルエンザ（H7N9）」が指定感染症疾病に定められ、同年10月からは感染性胃腸炎のうち病原体がロタウイルスであるものについて、基幹定点の対象疾病となった。

平成26年4月、鳥インフルエンザA（H7N9）について、指定感染症疾病としての指定が1年間延長された。同年7月からは、「中東呼吸器症候群（MERS）」が指定感染症疾病となり、同年9月からは、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」、「播種性クリプトコックス症」、「水痘（入院例に限る）」「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が、五類全数把握対象疾病に追加された。また、同年11月には感染症法の一部を改正する法律の公布により、「鳥インフルエンザ（H7N9）」及び「中東呼吸器症候群（MERS）」が二類感染症へ追加された。

平成28年2月には四類感染症に「ジカウイルス感染症」が追加された。

平成30年1月、「百日咳」が五類感染症の定点把握の対象から五類感染症の全数把握対象疾病に変更され、同年5月には「急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）」が、五類全数把握対象疾病に追加された。

このような本事業経過の中、県はこれまで感染症情報を週及び月単位で収集・分析し、「山梨県感染症情報センター」として関係機関に還元するとともに、ホームページを通じて関係者や県民に公開してきた。

平成28年度以降、本センターは衛生環境研究所内に移され、患者発生状況や病原体検出情報等について引き続き広く情報提供・公開を行っている。

## 2 対象感染症

平成 30 年 5 月 1 日現在、全数把握対象 89 疾病、定点把握対象 25 疾病及び、法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

### 全数把握対象(89 疾病)

	対 象 疾 病
一類感染症(7 疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、 (4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症(7 疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症(5 疾病)	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症(44 疾病)	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、(22)A型肝炎、(23)エキノкокクス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症(34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。)、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症(24 疾病)	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、(68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感



	染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症 (2 疾病)	(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ
指定感染症	該当なし

定点把握対象(25 疾病・2 疑似症:五類感染症及び法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)

	対象疾病
小児科定点(10 疾病)	(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、
インフルエンザ定点(1 疾病)	(98)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
眼科定点(2 疾病)	(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎
性感染症定点(4 疾病)	(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症
基幹定点(8 疾病)	(91)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの。)(105)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(106)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症定点	(114)摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状(明かな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、(115)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明かな場合を除く。)

### 3 地域区分と定点医療機関数

県内の定点把握対象五類感染症を把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、下表の数の医療機関を患者定点若しくは、病原体定点として指定している。(医療機関名は、IV参考資料の1「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧表」を参照)

平成30年1月1日現在

		中北	峡北支所	峡東	峡南	富士東部	計
患者 定 点	小児科定点	8	5	4	2	5	24
	内科定点	6	3	3	1	4	17
	インフルエンザ定点	14	8	7	3	9	41
	眼科定点	3	2	2	0	2	9
	性感染症定点	3	2	2	0	2	9
	基幹定点	3	2	2	1	2	10
	疑似症定点	18	10	9	4	11	52
病 原 体 定 点	小児科定点	2	0	0	0	1	3
	インフルエンザ定点	1	1	1	1	1	5
	眼科定点	1	0	0	0	0	1
	基幹定点	3	2	2	1	2	10

#### 【定点等説明】

患者定点：定点把握対象の五類感染症の発生状況を報告する医療機関

病原体定点：病原体の分離等の検査情報の収集や病原体検査のための検査材料を採取する医療機関

小児科定点：小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）

内科定点：内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）

インフルエンザ定点：小児科定点、内科定点の両者を合わせた医療機関

眼科定点：眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）

性感染症（STD）定点：産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）

基幹定点：患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）

疑似症定点：疑似症の発生状況を報告する医療機関

## Ⅱ 患者発生状況



## 1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における平成30年の全数把握対象感染症の報告数を「IV参考資料」の2に示した。

### 《一類感染症》

報告はなかった。

### 《二類感染症》

二類感染症7疾病のうち、結核（114例）の報告があった。

### 《三類感染症》

三類感染症5疾病のうち、細菌性赤痢（3例）、腸管出血性大腸菌感染症（14例）の報告があった。

### 《四類感染症》

四類感染症44疾病のうち、E型肝炎（2例）、A型肝炎（3例）、デング熱（1例）、マラリア（1例）、レジオネラ症（18例）の5疾病25例の報告があった。

### 《五類感染症》

五類感染症22疾病のうち、アメーバ赤痢（6例）、ウイルス性肝炎（1例）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（4例）、急性脳炎（8例）、クロイツフェルト・ヤコブ病（3例）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2例）、侵襲性インフルエンザ菌感染症（2例）、侵襲性髄膜炎菌感染症（1例）、侵襲性肺炎球菌感染症（13例）、水痘（入院例）（7例）、梅毒（17例）、破傷風（2例）、百日咳（152例）、風しん（13例）、麻しん（2例）、薬剤耐性アシネトバクター感染症（1例）の16疾病234例の報告があった。

### 《新型インフルエンザ等感染症》

報告はなかった。

## 2 定点把握対象感染症

### 《五類感染症》

山梨県および全国における平成30年の定点把握対象感染症の報告数と定点医療機関当たりの患者報告数<sup>※1</sup>（以下、「定点当たり報告数」と言う）をIV参考資料の3に示した。本県で患者報告数が1,000例を超えた疾病は、インフルエンザ（15,736例）、感染性胃腸炎（4,987例）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（2,019例）であった。定点当たり報告数が全国に比べて高かった疾病は、流行性角結膜炎（山梨県45.22、全国44.01）、ヘルパンギーナ（山梨県32.71、全国31.50）、伝染性紅斑（山梨県18.00、全国15.60）、性器ヘルペスウイルス感染症（山梨県12.78、全国9.28）、マイコプラズマ肺炎（山梨県12.00、全国11.66）など7疾病であった。

前年（平成29年）との定点当たり報告数の比較をIV参考資料の4に示した。定点当たり報告数が前年より増加した疾病は、伝染性紅斑（7.56倍）、急性出血性結膜炎（4.03倍）など10疾病であった。

## 《疑似症》

法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症である、摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）、発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）の報告はなかった。

## ※1：定点医療機関当たりの患者報告数とは

山梨県が指定する医療機関（指定届出機関）から1週間ごとに報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。県内の指定届出機関の一覧はIV参考資料の1に掲載している。

## 注意報レベル、警報レベルについて

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

- 警報レベル 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指す。
- 注意報レベル 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは、保健所単位で集計した1週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未滿で終息となる。注意報レベルは、1週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合である。

警報・注意報基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下のとおり定められており、定期的に評価・見直しが行われている。なお、平成30年第36週から、水痘の警報・注意報の基準値が警報開始基準値2、警報終息基準値1、注意報基準値1に変更となった。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

平成30年9月現在

基準値はすべて定点当たり報告数である。注意報の「-」は対象としないことを意味する。

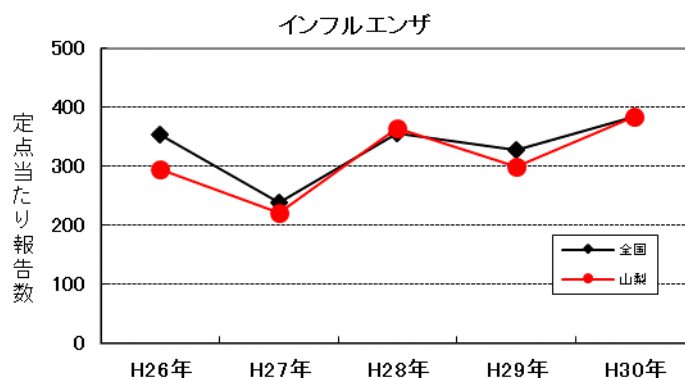
## 2-1 インフルエンザ定点から報告された感染症

県内 41 カ所のインフルエンザ定点から、対象疾病であるインフルエンザについて週報として報告される。

### ○インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点医療機関から 15,736 例（定点当たり報告数 383.80）の報告があり、前年（12,287 例）よりやや増加した。

最近 5 年間の状況は全国とほぼ同様の推移であった。

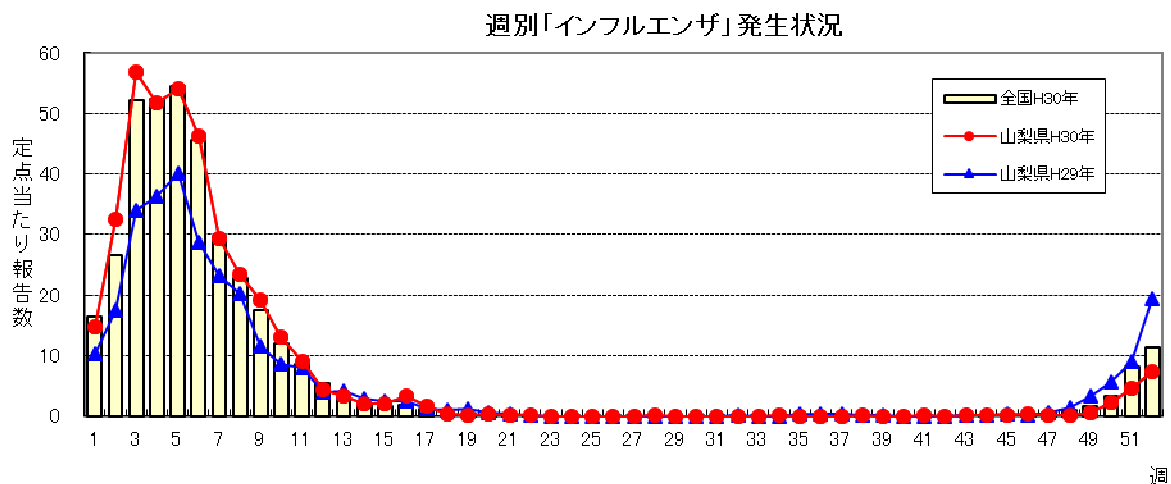


### 《週別発生状況》

2017/2018 シーズンは H29 年の第 41 週から継続的に患者報告があり、第 48 週（1.41）に定点当たり報告数が流行開始の基準となる 1.0 を超えた。注意報レベル基準値（10.0）を超えたのは H29 年第 51 週の富士・東部保健所管内（14.67）、警報レベル開始基準値（30.0）を超えたのは H30 年第 2 週の中北保健所管内（34.14）、峡東保健所峡北支所管内（44.43）、富士・東部保健所管内（32.11）であった。その後は H30 年第 3 週（56.78）をピークとして減少し、第 18 週（0.27）に 1.0 を下回るまで流行は継続した。

2018/2019 シーズンは第 37 週から継続的に患者報告があり、第 50 週（2.32）に流行開始の基準となる 1.0 を超え、第 52 週には富士東部保健所管内（10.44）で注意報レベル基準値を超えた。

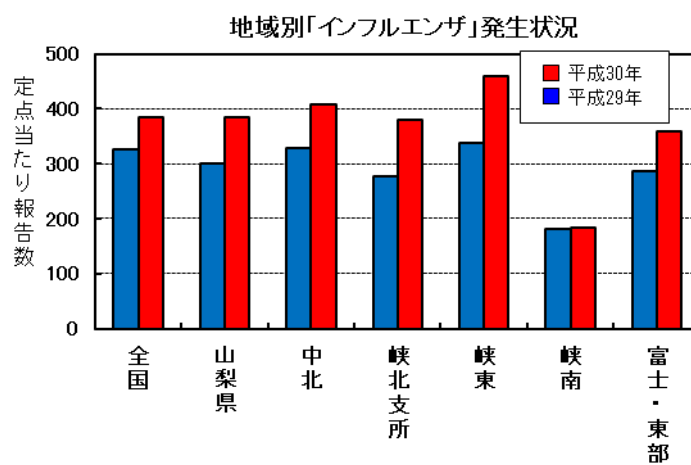
年間を通した発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



### 《地域別発生状況》

定点当たりの報告数が最も多かったのは、前年と同じ峡東保健所管内（459.29）、次いで中北保健所管内（407.29）であった。最も少なかったのは峡南保健所管内（184.00）であった。

全ての保健所管内で前年よりも報告数が増加した。





## 2-2 小児科定点から報告された感染症

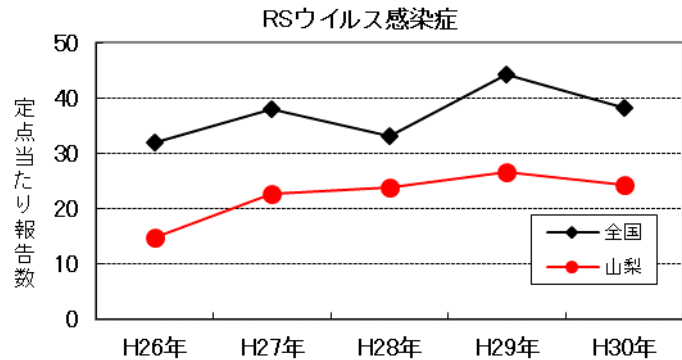
県内 24 カ所の小児科定点から、対象疾病である RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎について週報として報告される。

総報告数は 10,439 例で、手足口病や咽頭結膜熱の報告数の減少及び百日咳が全数把握対象疾病に変更となったこと等により、前年（14,873 例）より大幅に減少した。前年と比較して報告数が増加した疾病は、水痘、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナの 4 疾病であった。

## ○ RSウイルス感染症

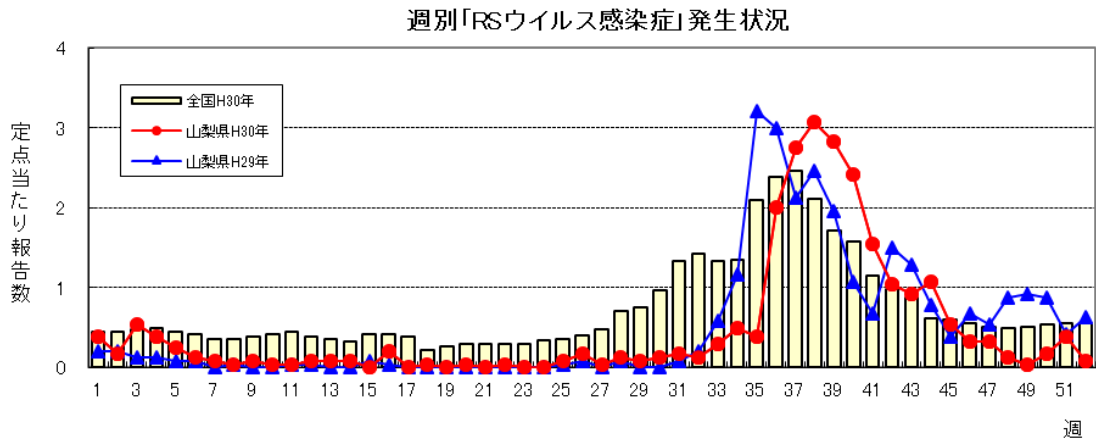
定点医療機関から 587 例  
(定点当たり報告数 24.46)  
の報告があり、前年 (641 例)  
よりもやや減少した。

最近 5 年間は、全国よりも  
少ない報告数で、同様に推移  
している。



### 《週別発生状況》

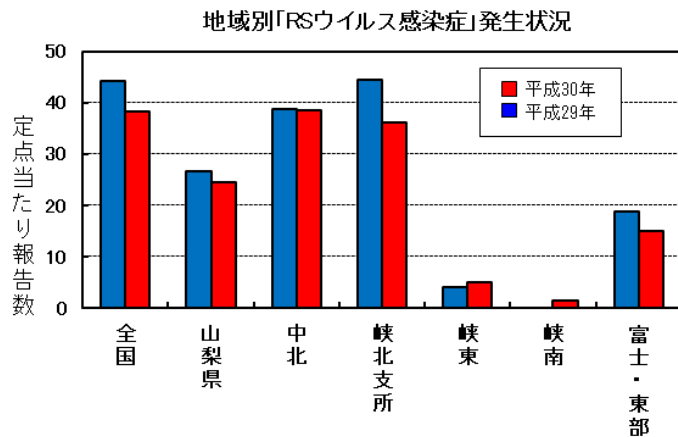
前年よりも 3 週間遅い第 38 週 (3.08) をピークとする冬季の流行がみられた。全国  
では、第 37 週 (2.46) にピークを示した。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も  
多かったのは中北保健所管  
内 (38.50) であった。

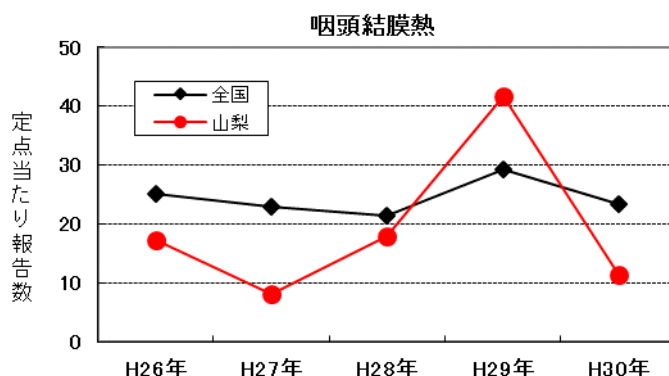
峡東保健所管内、峡南保健  
所管内では報告が少なく、流  
行地域に偏りがみられた。



## ○ 咽頭結膜熱

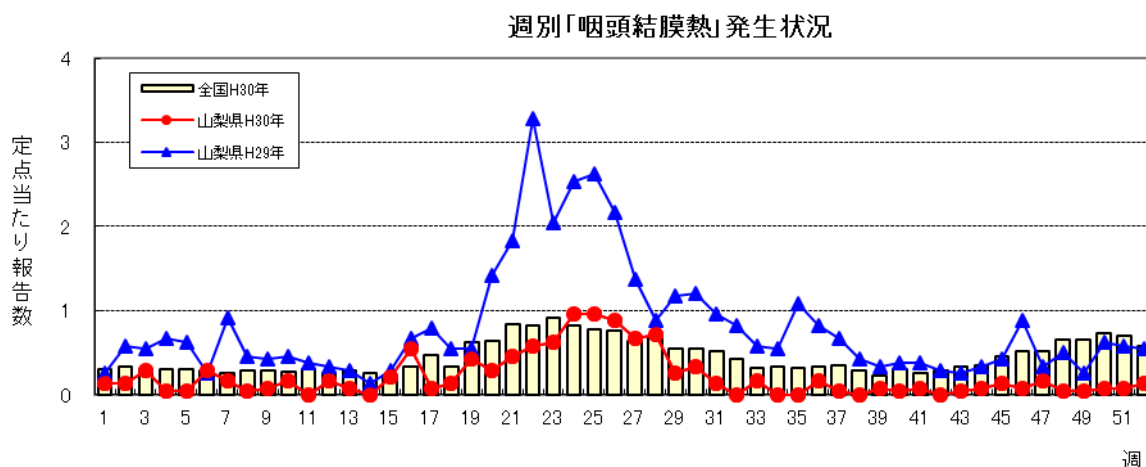
定点医療機関から 271 例（定点当たり報告数 11.29）の報告があり、前年（1,000 例）より大幅に減少した。

前年は全国を大きく上回る報告数であったが、本年は下回った。



### 《週別発生状況》

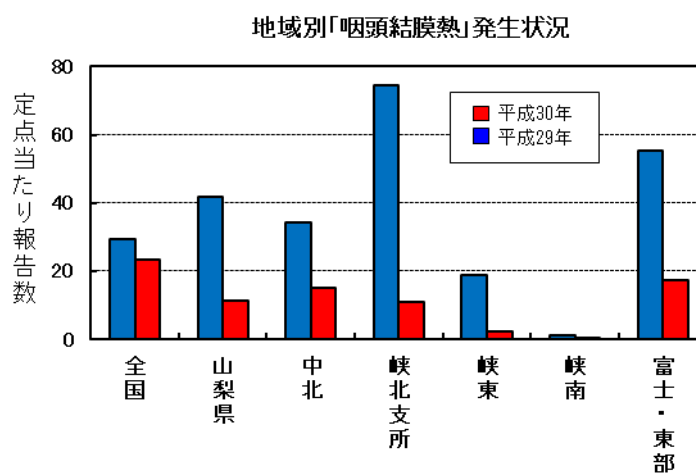
第 24 週、第 25 週（0.96）の夏季に報告数のピークを示したが、大きな流行はみられなかった。



### 《地域別発生状況》

全ての保健所、支所管内で前年よりも報告数が大幅に減少した。

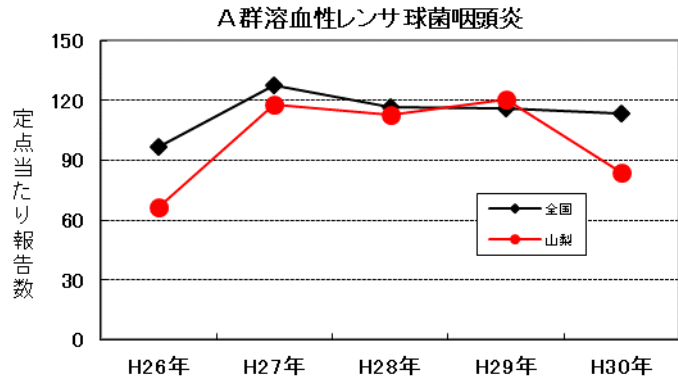
定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（17.20）であったが、全国（23.46）を下回った。



## ○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

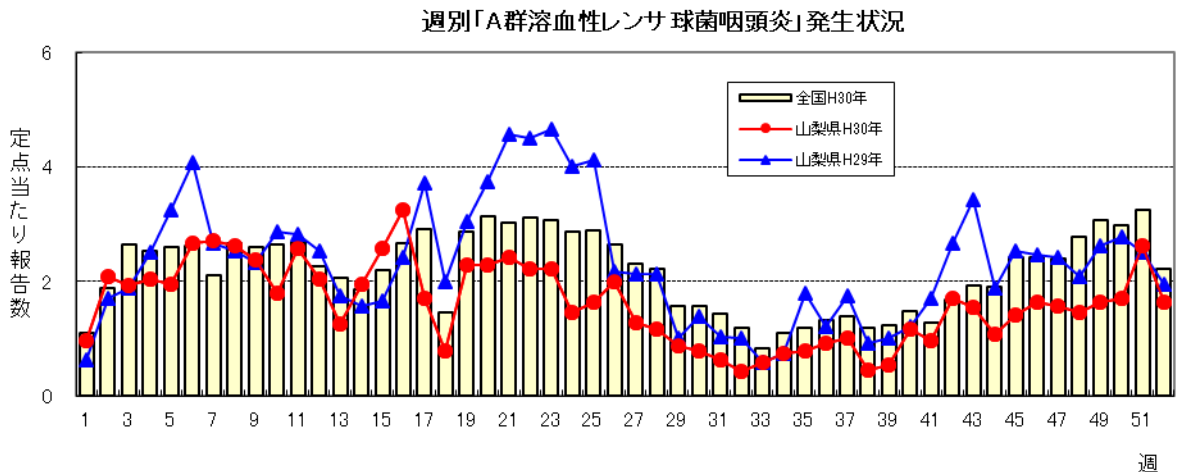
定点医療機関から 2,019 例  
(定点当たり報告数 84.13) の  
報告があり、前年 (2,897 例)  
よりも減少した。

最近 5 年間は、全国と同様に  
推移している。



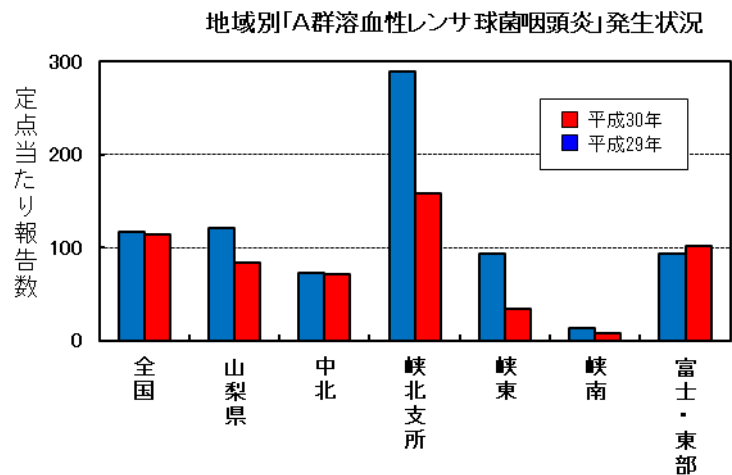
### 《週別発生状況》

第 16 週 (3.25)、第 51 週 (2.63) をピークとする小さい流行が見られた。年間を通した発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



### 《地域別発生状況》

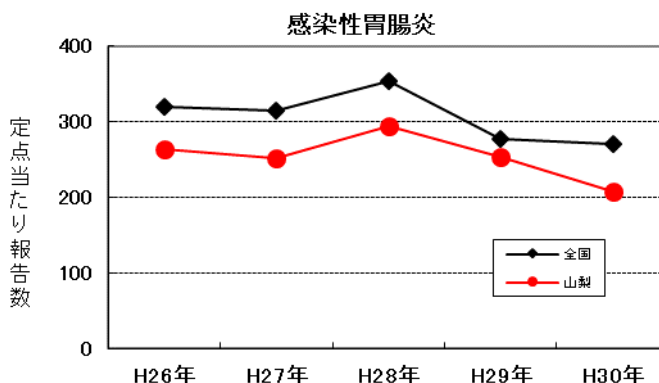
定点当たり報告数の最も多かったのは中北保健所峡北支所管内  
(158.80) であった。中北保健所  
峡北支所管内、峡東保健所管内で  
は前年よりも大幅に減少した。



## ○ 感染性胃腸炎

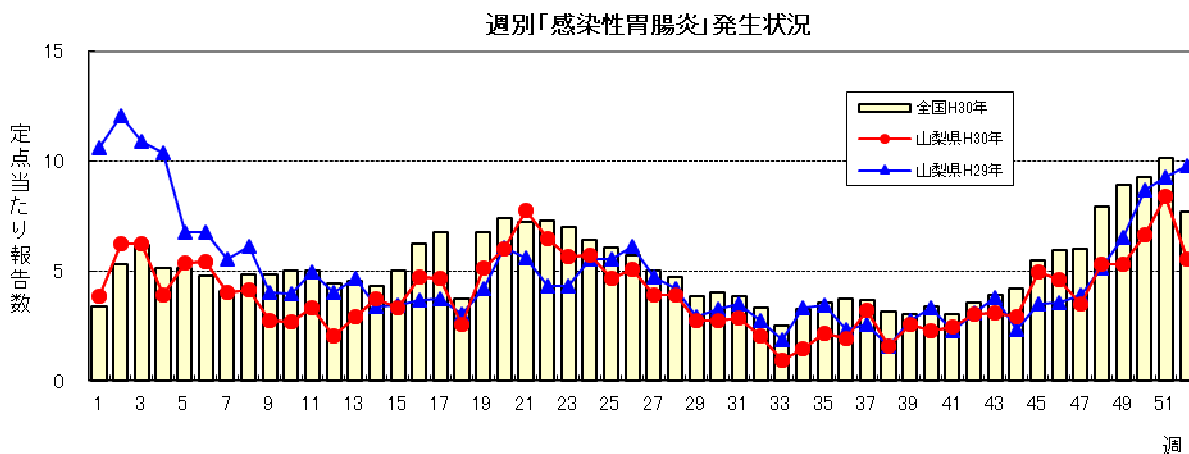
定点医療機関から 4,987 例（定点当たり報告数 207.79）の報告があり、前年（6,088 例）より減少した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数で、同様に推移している。



### 《週別発生状況》

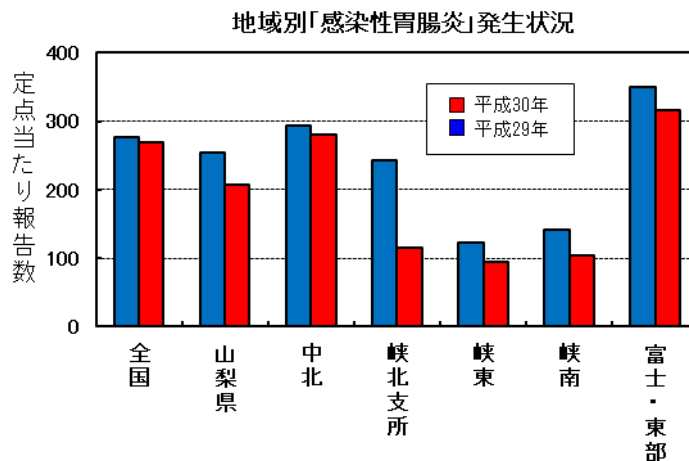
定点当たり報告数は第 21 週（7.75）、第 51 週（8.38）を緩やかなピークとする冬季を中心とする流行がみられた。年間を通した発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（349.40）であった。

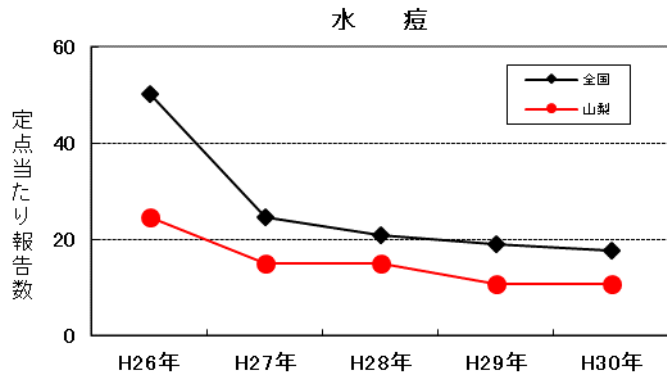
全ての保健所、支所管内で前年よりも減少したが、中北保健所管内（280.75）、富士・東部保健所管内では全国（269.93）を上回った。



## ○ 水痘

定点医療機関から 258 例（定点当たり報告数 10.75）の報告があり、前年（255 例）とほぼ同数であった。

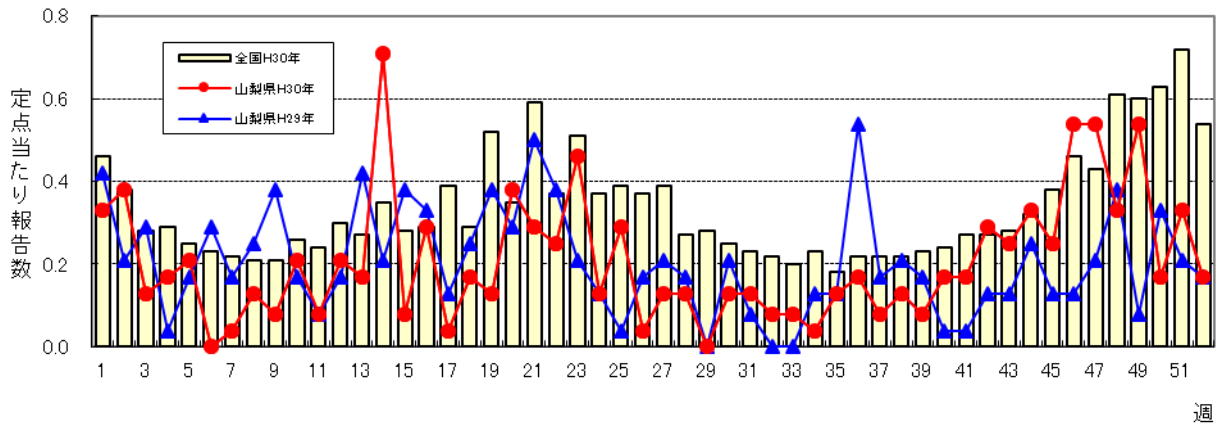
最近 5 年間は、全国、本県ともに減少傾向である。



### 《週別発生状況》

第 14 週 (0.71)、第 46 週、第 47 週、第 49 週 (0.54) をピークとする 2 峰性の流行がみられた。第 46 週には中北保健所管内 (1.00)、第 47 週には峡東保健所管内 (1.25)、第 48 週には富士東部保健所管内 (1.00)、第 49 週には峡東保健所管内 (1.00) で注意報レベル基準値 (1.0) 以上となった。

週別「水痘」週別発生状況



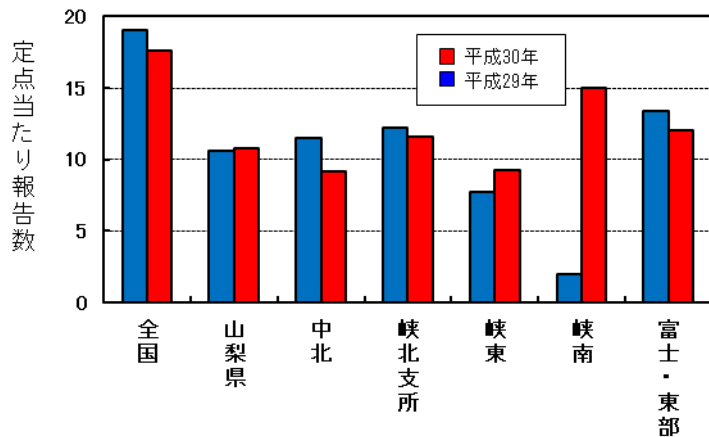
週

### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、峡南保健所管内 (15.00) であり、前年よりも大幅に増加した。

その他の保健所、支所管内では前年とほぼ同様の報告状況であった。

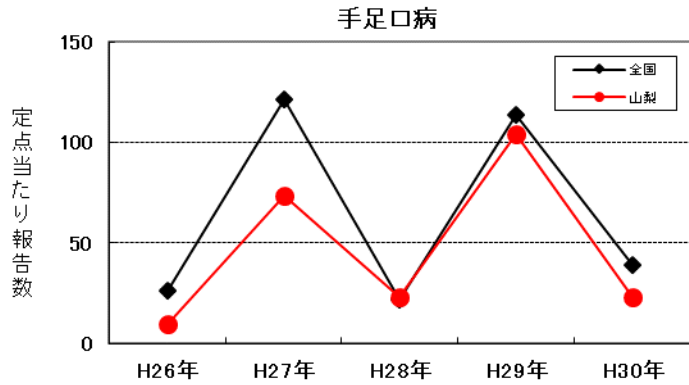
地域別「水痘」発生状況



## ○ 手足口病

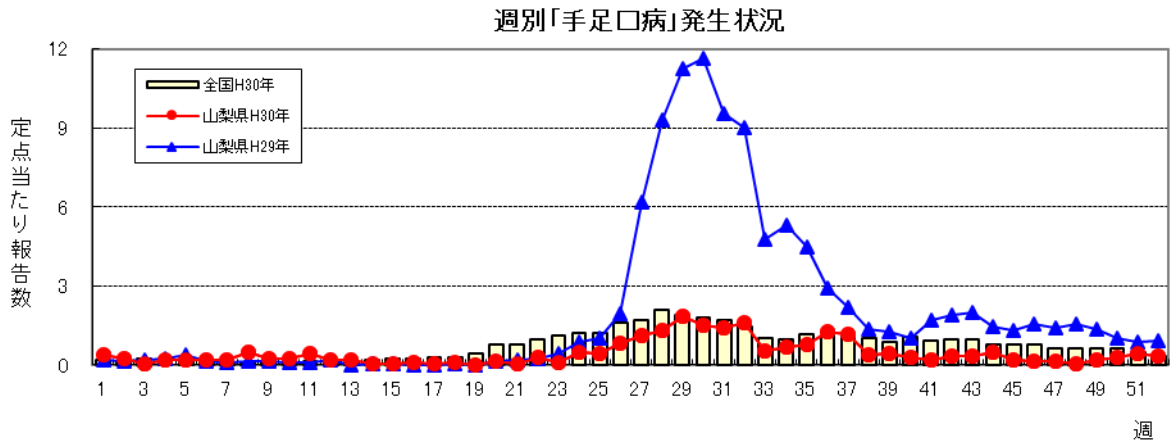
定点医療機関から 558 例（定点当たり報告数 23.25）の報告があり、前年（2,503 例）と比較して大幅に減少した。

全国でも前年より大幅に減少しており、最近 5 年間は全国と同様に推移している。



### 《週別発生状況》

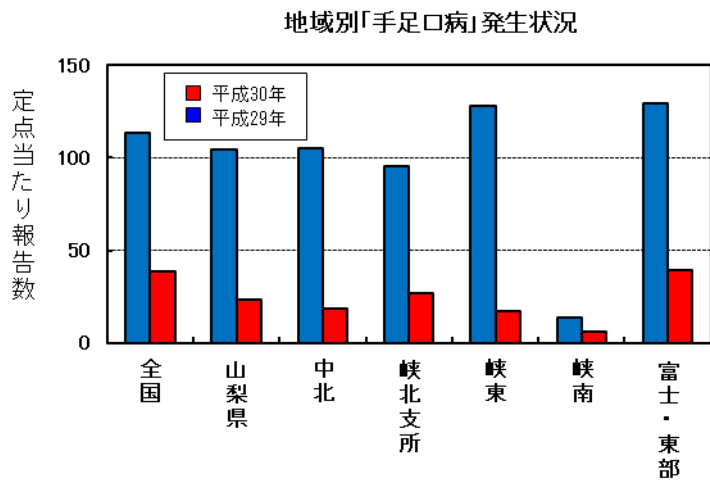
第 29 週（1.83）をピークとする夏季の流行がみられた。年間を通した発生状況は全国とほぼ同様であった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、富士・東部保健所管内（39.00）であった。

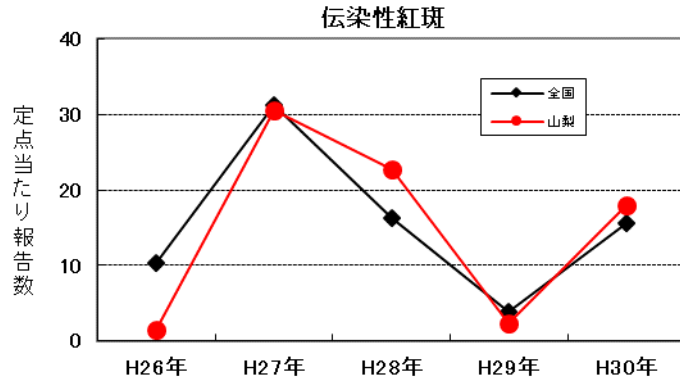
全ての保健所、支所管内で前年よりも大幅に報告数が減少した。



## ○ 伝染性紅斑

定点医療機関から 432 例(定点当たり報告数 18.00) の報告があり、前年(57 例) より大幅に増加した。

最近 5 年間は全国と同様に推移している。

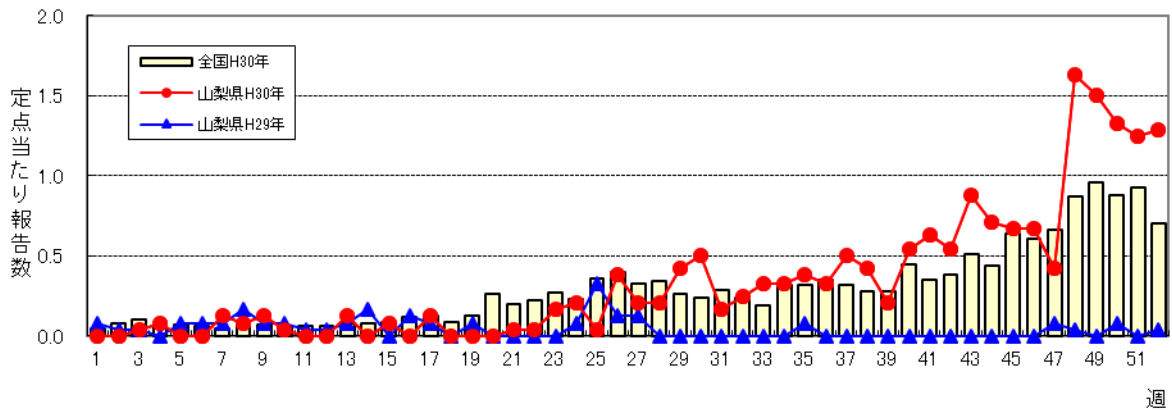


### 《週別発生状況》

第 21 週以降報告数が増加し、最も多かったのは第 48 週(1.63)であった。第 41 週から第 45 週、第 48 週には峡東保健所管内、第 48 週から第 52 週には富士・東部保健所管内、第 50 週には峡南保健所管内で警報レベルとなった。

年間を通した発生状況は全国とほぼ同様であった。

週別「伝染性紅斑」発生状況

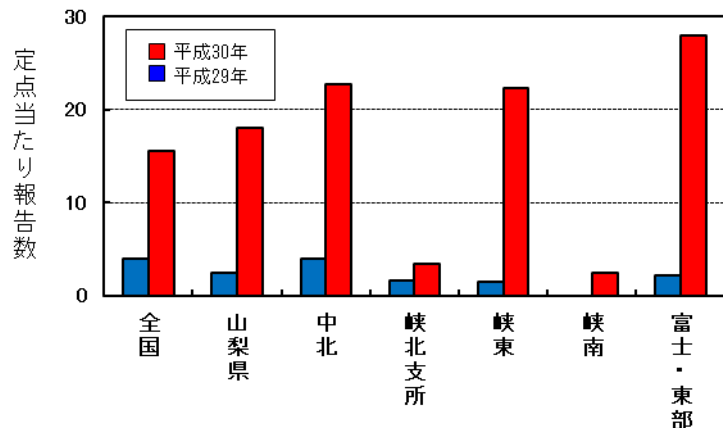


### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内(28.00)であった。

全ての保健所、支所管内で報告数が増加したが、特に中北保健所管内、峡東保健所管内、富士・東部保健所管内では大幅に増加した。

地域別「伝染性紅斑」発生状況

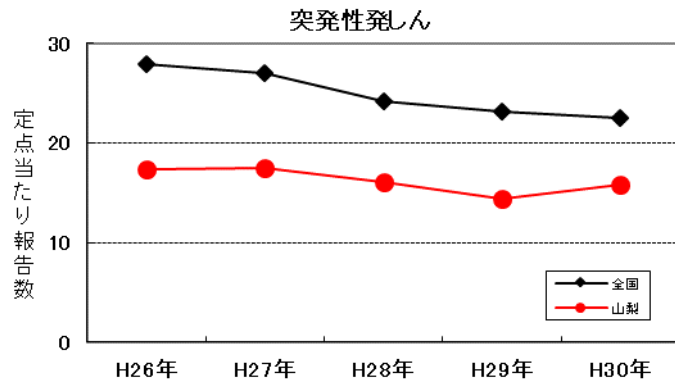




## ○ 突発性発しん

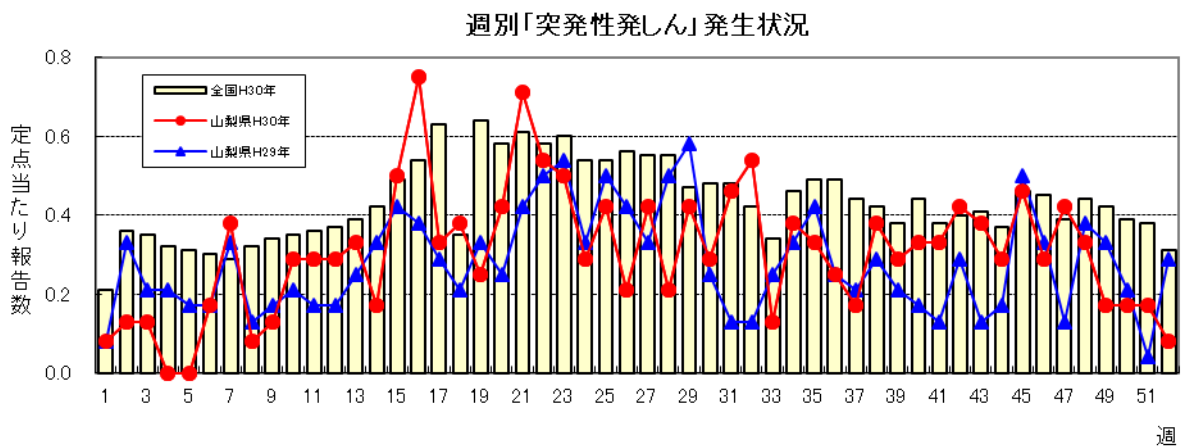
定点医療機関から 380 例（定点当たり報告数 15.83）の報告があり、前年（347 例）よりやや増加した。

全国では最近 5 年間はやや減少傾向である。



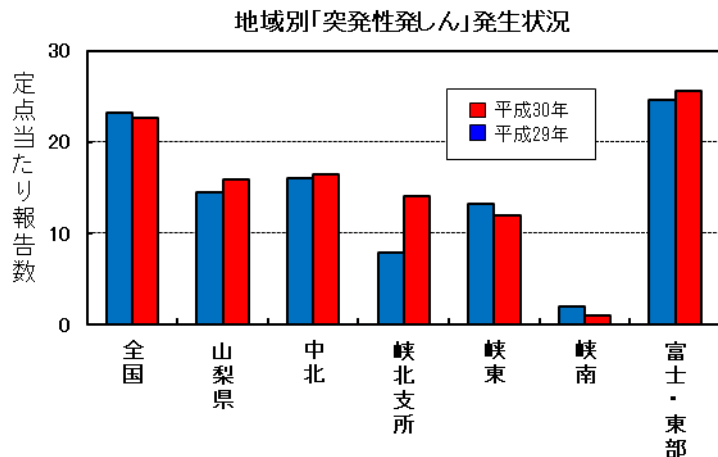
## 《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、第 16 週 (0.75)、第 21 週 (0.71) で報告数が多かった。



## 《地域別発生状況》

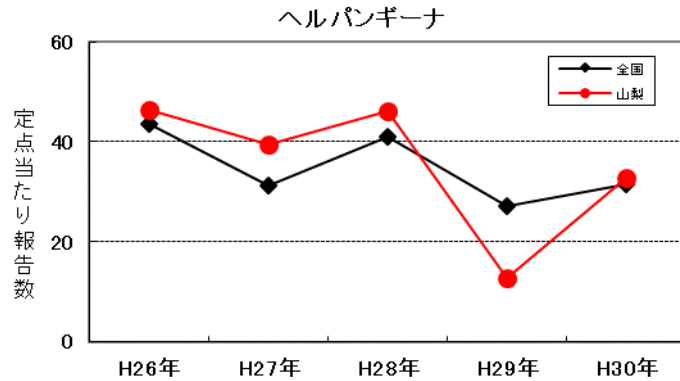
定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内 (25.60) であり、全国 (22.57) を上回ったが、峡南保健所管内 (1.00) の報告数は少なく、流行地域に偏りがみられた。



## ○ ヘルパンギーナ

定点医療機関から 785 例（定点当たり報告数 32.71）の報告があった。前年（305 例）よりも大幅に増加した。

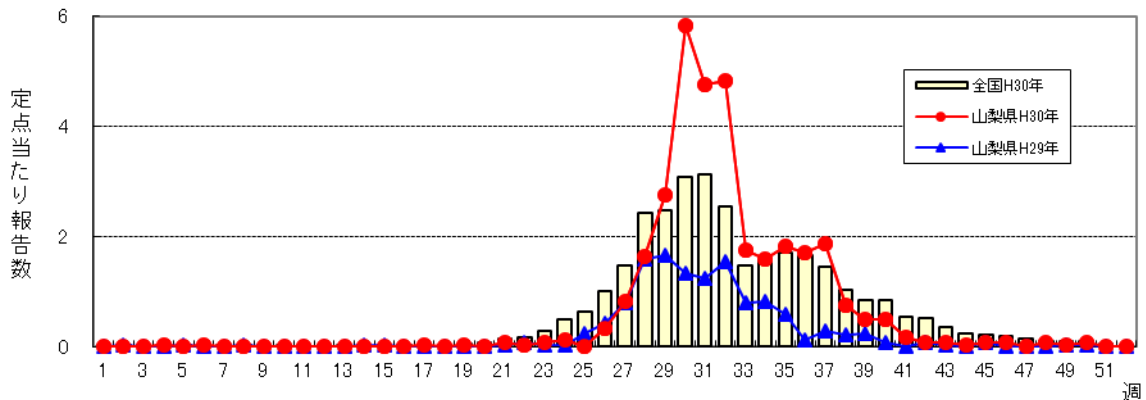
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



### 《週別発生状況》

第30週(5.83)をピークとする夏季の流行がみられた。第30週に中北保健所管内(7.00)、中北保健所峡北支所管内(10.40)で警報レベル開始基準値(6.0)を超えて以降、第32週まで警報レベルが継続した。年間を通した発生状況は全国と同様であった。

週別「ヘルパンギーナ」発生状況

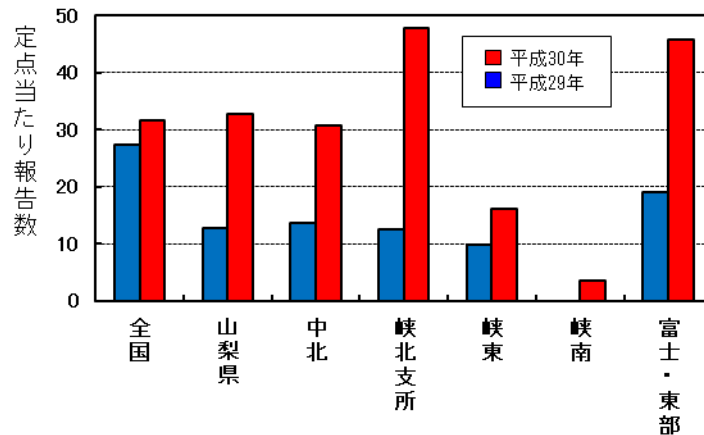


### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数は、全ての保健所、支所管内で大幅に増加した。

報告数が最も多かったのは中北保健所峡北支所管内(47.80)、最も少なかったのは峡南保健所管内(3.50)であり、流行地域に偏りがみられた。

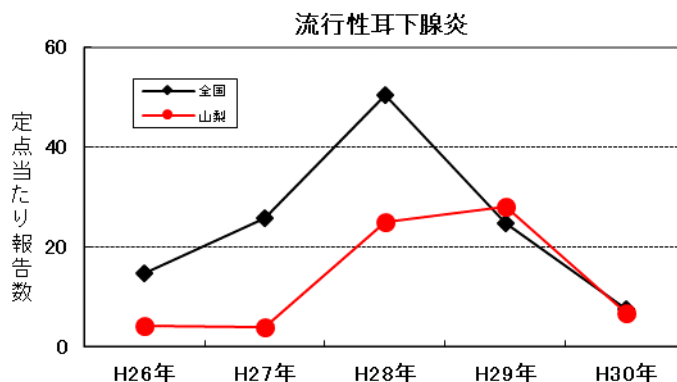
地域別「ヘルパンギーナ」発生状況



## ○ 流行性耳下腺炎

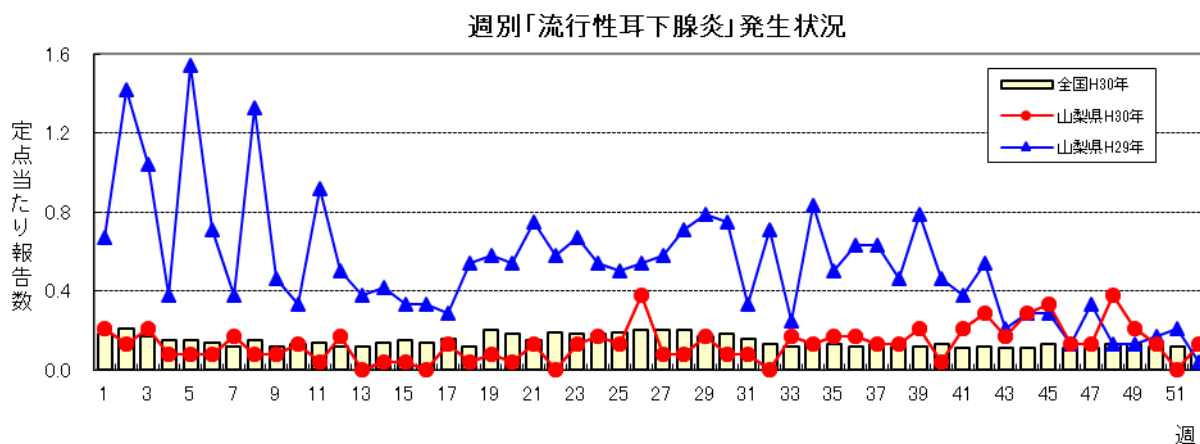
定点医療機関から162例(定点当たり報告数6.75)の報告があり、前年(670例)よりも大幅に減少した。

全国でも前年よりも大幅に減少した。



### 《週別発生状況》

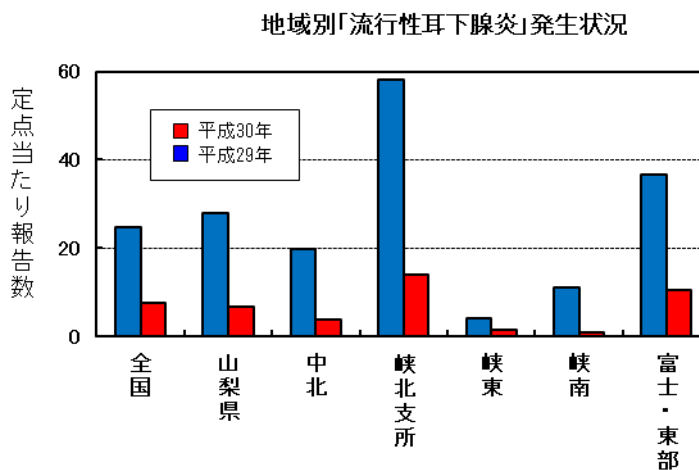
年間を通して報告があつたが大きな流行はみられず、全国とほぼ同様の推移であつた。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数は全ての保健所管内で大幅に減少した。

報告数が最も多かつたのは中北保健所峡北支所管内(14.00)であつた。

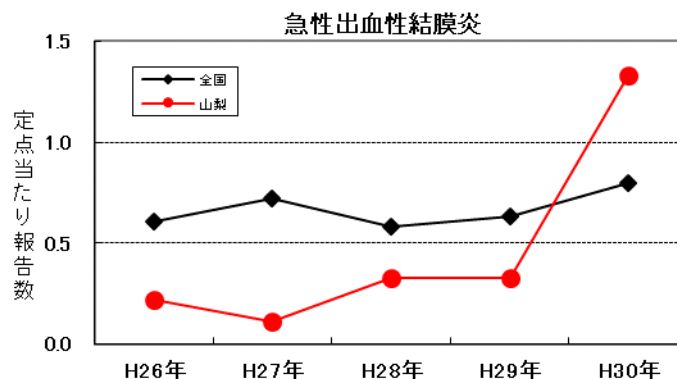


## 2-3 眼科定点から報告された感染症

県内9カ所の眼科定点から、対象疾病である急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎について週報として報告される。平成30年に報告された総数は419例であった。

### ○ 急性出血性結膜炎

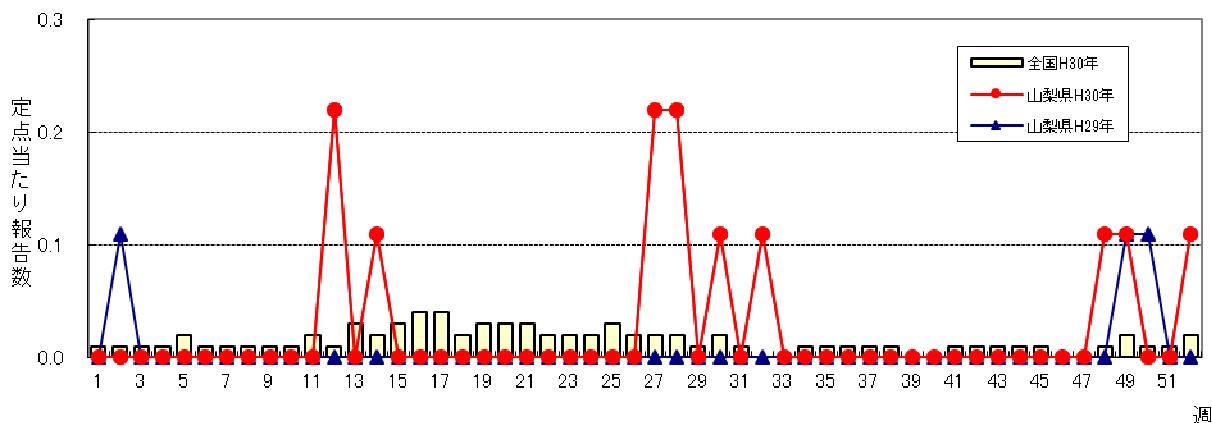
定点医療機関から12例（定点当たり報告数1.33）の報告があった。前年よりも大幅に増加し、全国を上回った。



### 《週別発生状況》

第12週、第27週、第28週には各2例、第14週、第30週、第32週、第48週、第49週、第52週には各1例の報告があった。第28週には中北保健所峡北支所管内（1.00）で警報レベル開始基準値（1.0）以上となった。

週別「急性出血性結膜炎」発生状況



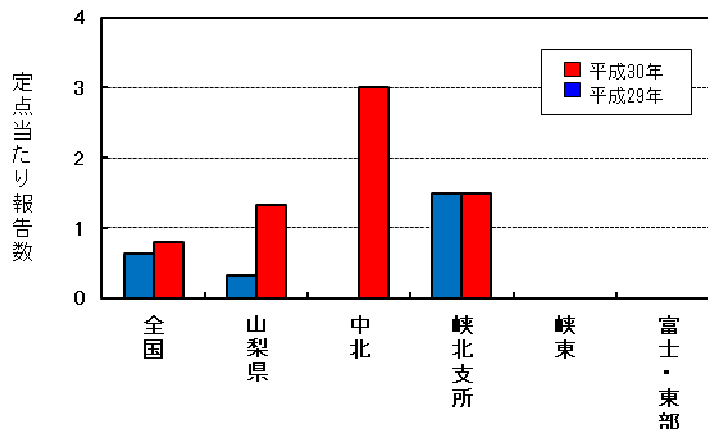
### 《地域別発生状況》

報告があったのは中北保健所管内（3.00）、中北保健所峡北支所管内（1.50）であった。

前年に報告のなかった中北保健所管内で大幅な増加がみられた。

（※峡南保健所管内には定点の指定なし）

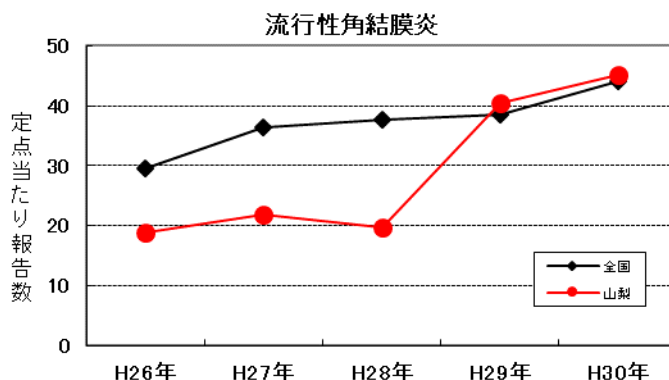
地域別「急性出血性結膜炎」発生状況



## ○ 流行性角結膜炎

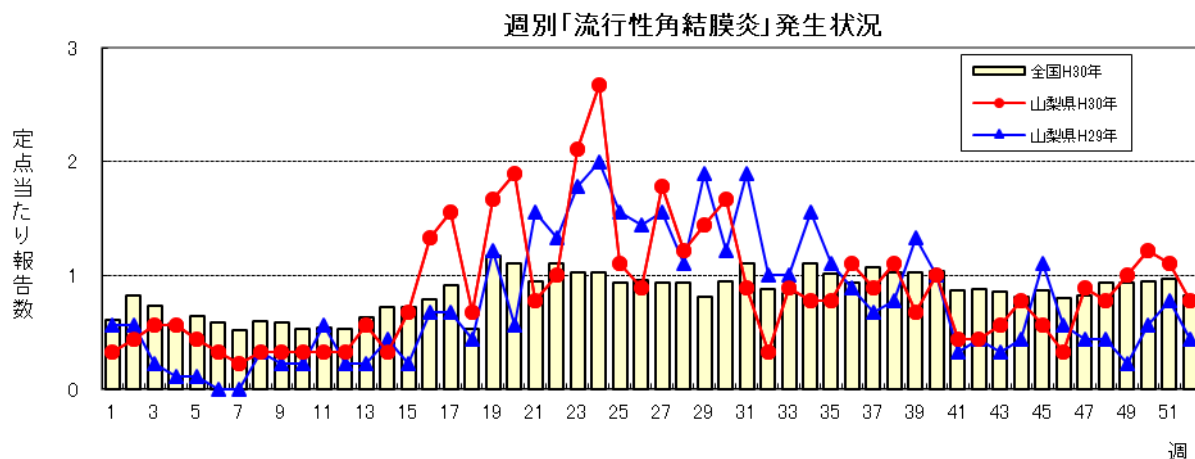
定点医療機関から 407 例（定点当たり報告数 45.22）の報告があり、前年（363 例）よりやや増加した。

全国、山梨県ともに、やや増加傾向である。



### 《週別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは前年と同じ第 24 週（2.67）であった。第 23 週に富士・東部保健所管内（8.00）で警報レベル開始基準値（8.0）を超えて以降、第 25 週まで警報レベルが継続した。



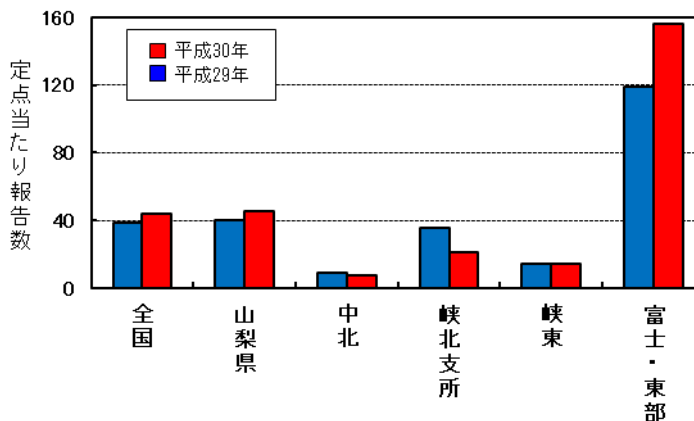
### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（156.50）で、前年（119.00）より増加した。

富士・東部保健所管内で全体の約 7 割以上を占め、流行地域に偏りがみられた。

（※峡南保健所管内には定点の指定なし）

### 地域別「流行性角結膜炎」発生状況



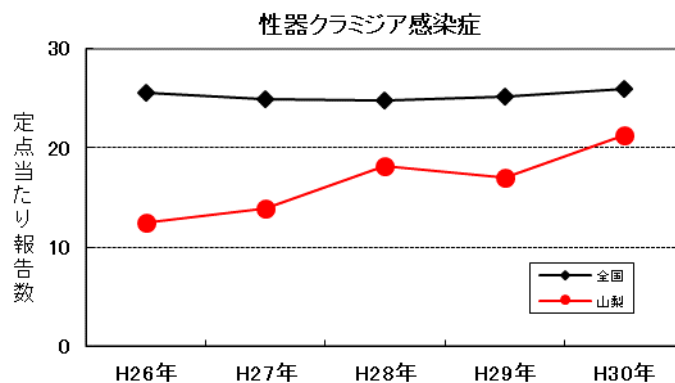
## 2-4 性感染症定点から報告された感染症

県内9カ所の性感染症（STD）定点から、対象疾病である性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症について月報として報告される。平成30年に報告された総数は369例で、前年（343例）よりも増加した。

### ○ 性器クラミジア感染症

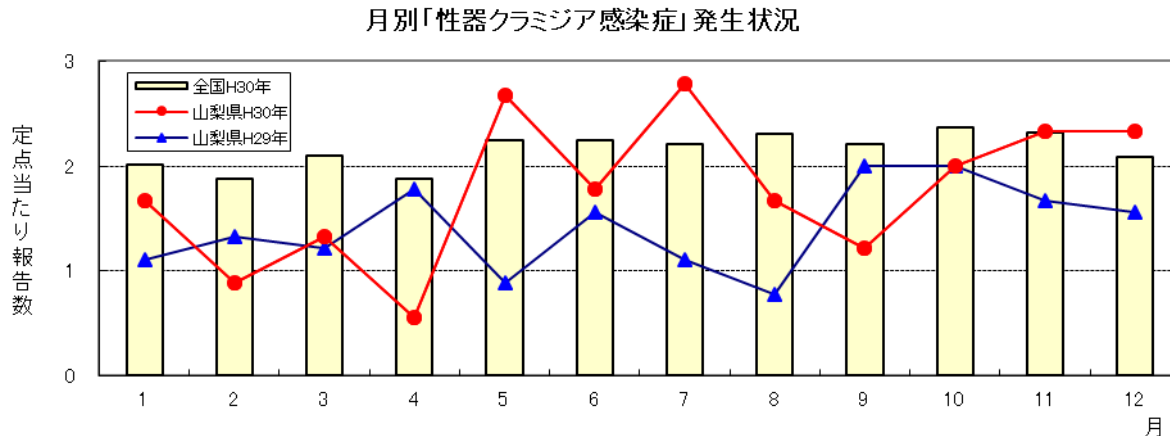
定点医療機関から191例（定点当たり報告数21.22）の報告があり、前年（153例）より増加した。

最近5年間は、全国ではほぼ横ばいで推移しているが、本県では増加傾向である。



### 《月別報告数》

各定点から毎月報告があったが、5月（2.67）、7月（2.78）に報告数が多かった。

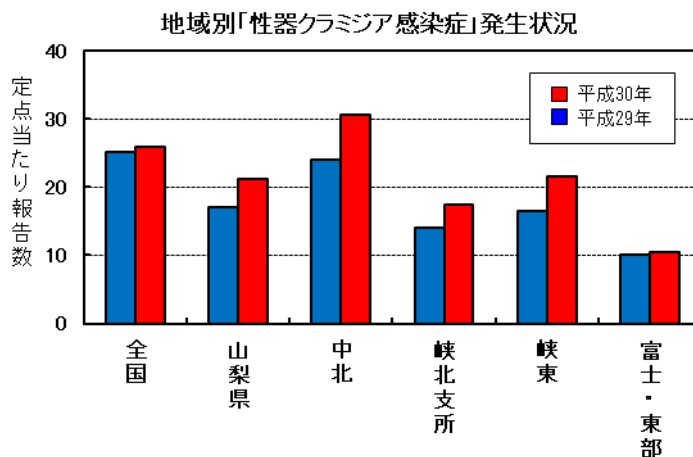


### 《域別発生状況》

全ての保健所、支所管内で定点当たり報告数が増加した。

最も多かったのは中北保健所管内（30.67）であった。

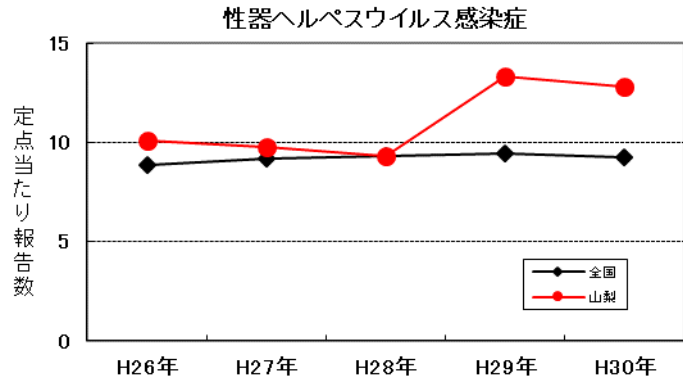
（※峡南保健所管内には定点の指定なし）



## ○ 性器ヘルペスウイルス感染症

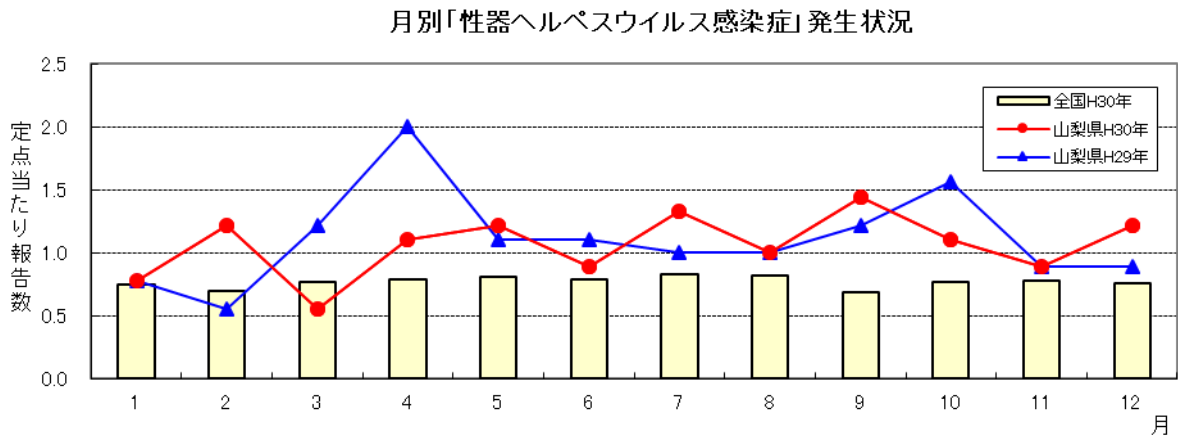
定点医療機関から115例(定点当たり報告数12.78)の報告があり、前年(120例)よりやや減少した。

全国では最近5年間はほぼ横ばいに推移している。



### 《月別発生状況》

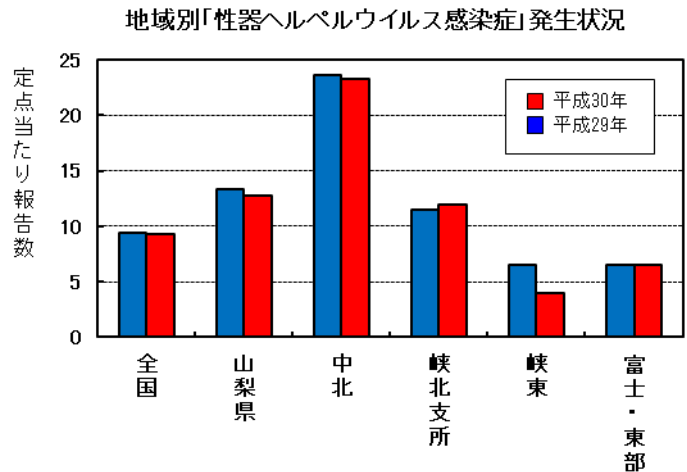
毎月報告があり、定点当たり報告数は3月を除き、各月の全国を上回った。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(23.33)で、県内報告数の約6割を占め、全国(9.28)を上回った。

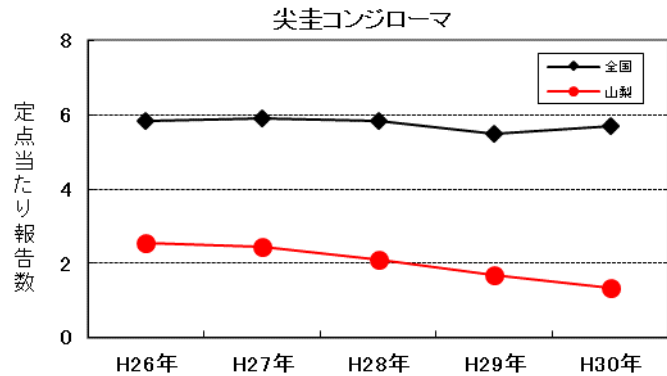
(※峡南保健所管内には定点の指定なし)



○ 尖圭コンジローマ

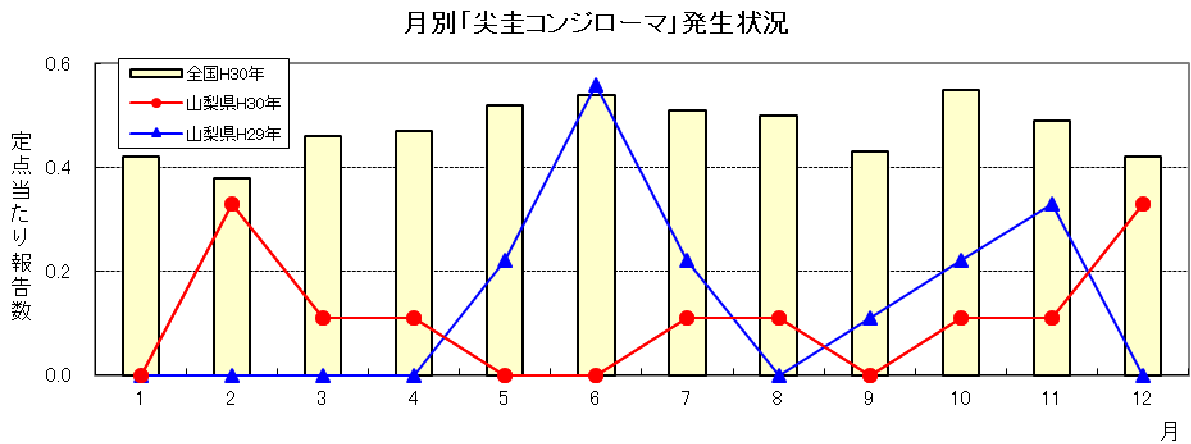
定点医療機関から12例（定点当たり報告数1.33）の報告があり、前年（15例）よりもやや減少した。

最近5年間の状況はやや減少傾向であり、全国よりも少なく推移している。



《月別発生状況》

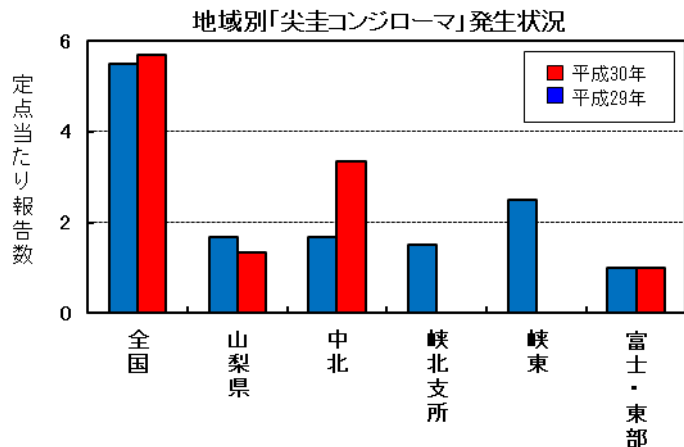
1月、5月、6月、9月を除き、年間を通して患者の報告があったが、報告数は各月の全国を下回った。



《地域別発生状況》

報告があったのは中北保健所管内（3.33）、富士・東部保健所管内（1.00）であった。

(※峡南保健所管内には定点の指定なし)

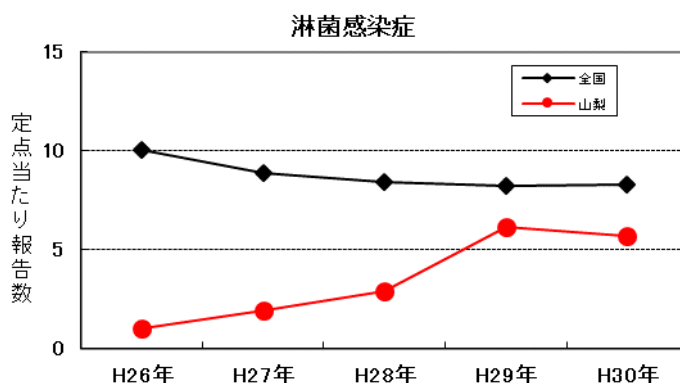




## ○ 淋菌感染症

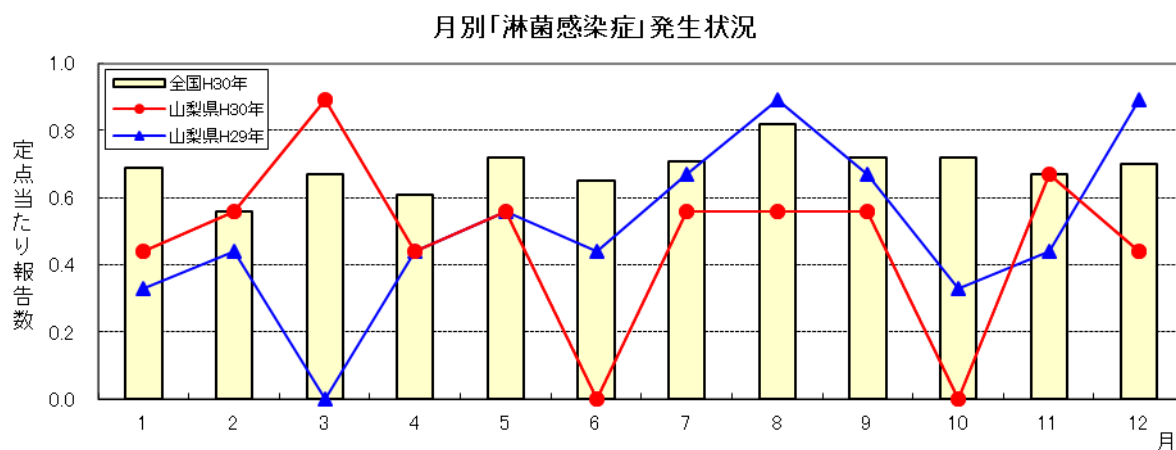
定点医療機関から 51 例（定点当たり報告数 5.67）の報告があり、前年（55 例）よりもやや減少した。

過去 5 年間の推移を見ると、全国ではやや減少傾向であるが、本県ではやや増加傾向である。



### 《月別発生状況》

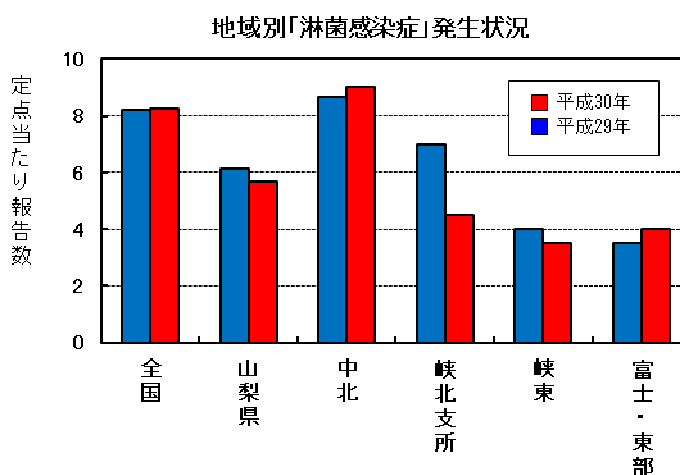
6 月、10 月を除き、年間を通して患者の報告があった。報告数が多かった 3 月（0.89）には、同時期の全国（0.67）よりも多かった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（9.00）で、全国（8.26）を上回った。

中北保健所峡北支所管内では前年の約 3 分の 2 に報告数が減少した。



（※峡南保健所管内には定点の指定なし）

## 2-5 基幹定点から報告された感染症

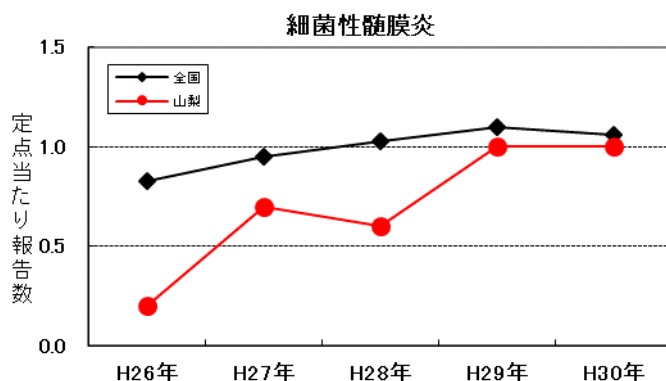
県内 10 カ所の基幹定点から、対象疾病である細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）及び感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの。）は週報として、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は月報として報告される。

平成 30 年に基幹定点から報告された総数は 347 例（定点当たり報告数 34.70）で、報告数が多かったのは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 161 例、マイコプラズマ肺炎 120 例であった。

## ○ 細菌性髄膜炎

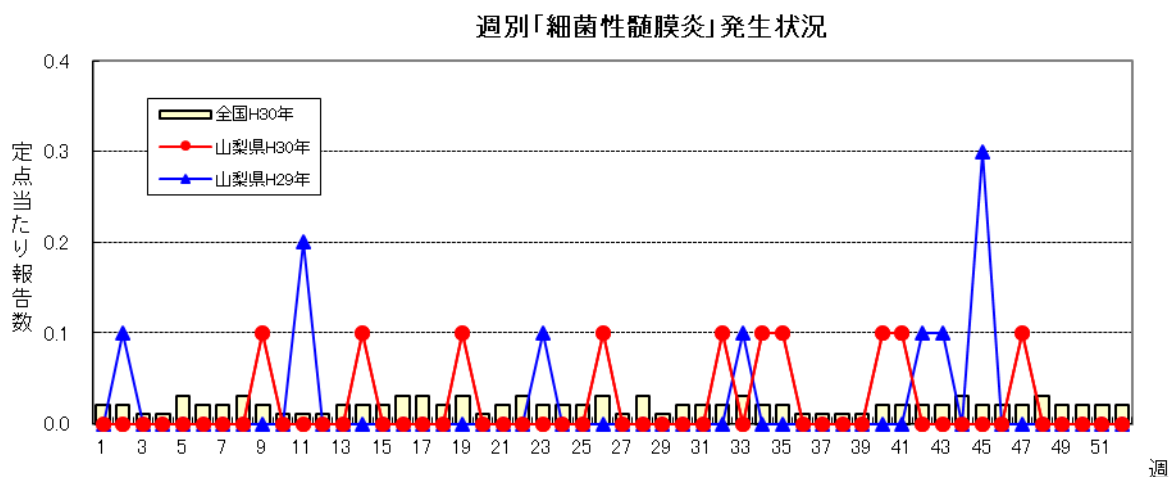
定点医療機関から10例(定点当たり報告数1.00)の報告があり、前年と同数であった。

最近5年間は増加傾向であり、全国よりも少ない報告数で推移している。



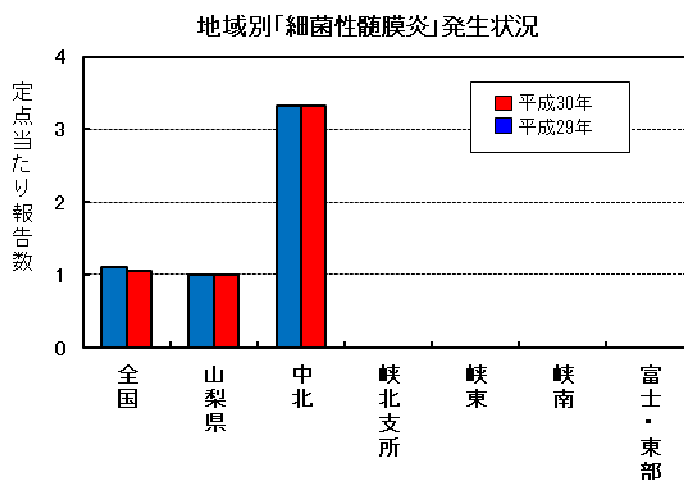
### 《週別発生状況》

第9週、14週、19週、26週、32週、34週、35週、40週、41週、47週に各1例の報告があった。



### 《地域別発生状況》

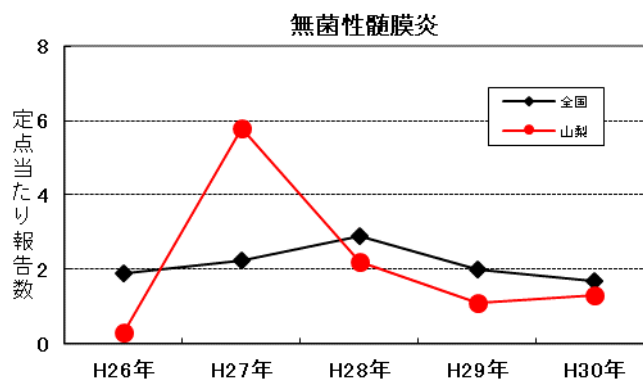
報告があったのは、中北保健所管内(3.33)のみであり、前年と同数であった。



## ○ 無菌性髄膜炎

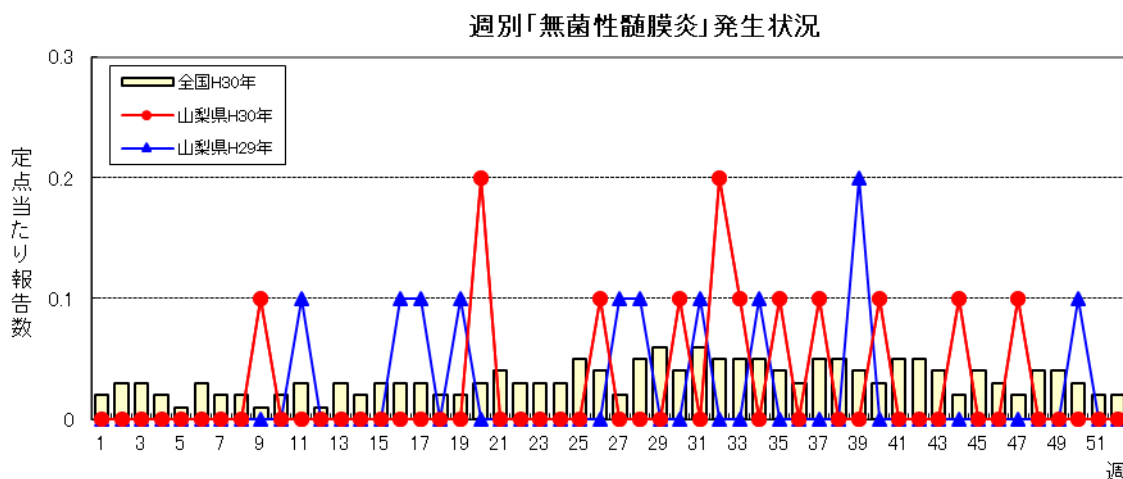
定点医療機関から 13 例（定点当たり報告数 1.30）の報告があり、前年（11 例）よりやや増加した。

ここ数年は、定点報告数が全国より若干少ない状況で推移している。



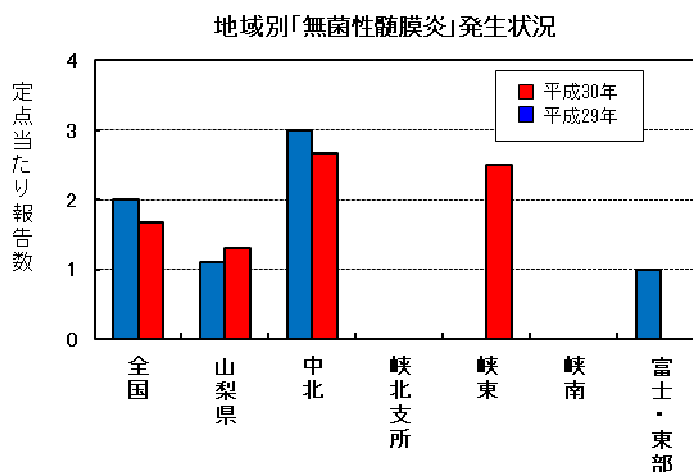
## 《週別発生状況》

年間を通して報告があり、大きなピークはみられなかった。



## 《地域別発生状況》

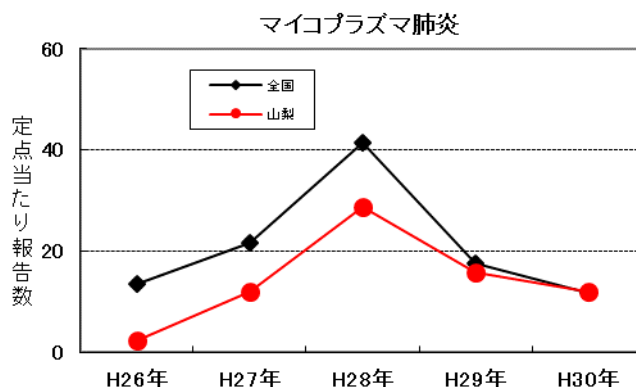
報告があったのは中北保健所管内（2.67）と峡東保健所管内（2.50）であった。



## ○ マイコプラズマ肺炎

定点医療機関から 120 例（定点当たり報告数 12.00）の報告があり、前年（158 例）よりも減少した。

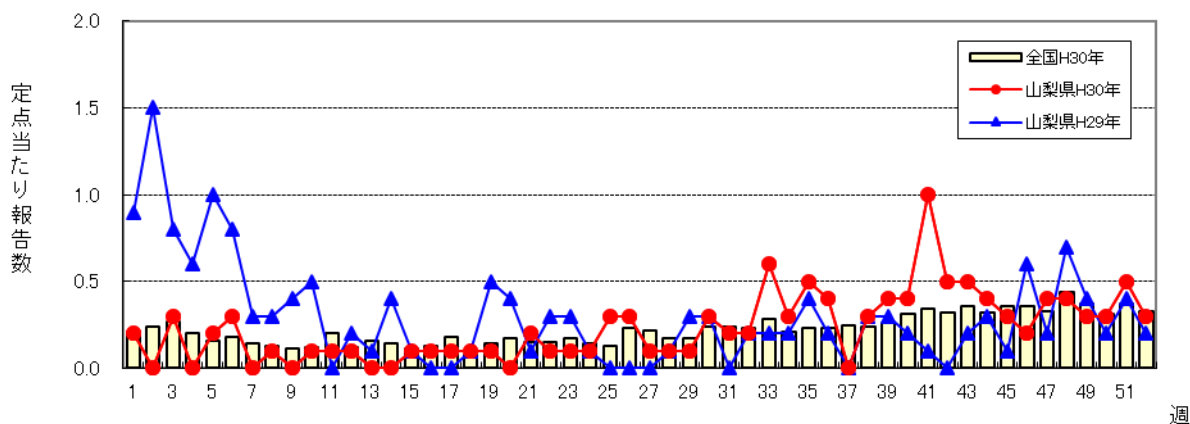
最近 5 年間は全国と同様に推移しており、H28 年を頂点に減少傾向である。



### 《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、第 41 週（1.00）に報告数が最も多かった。

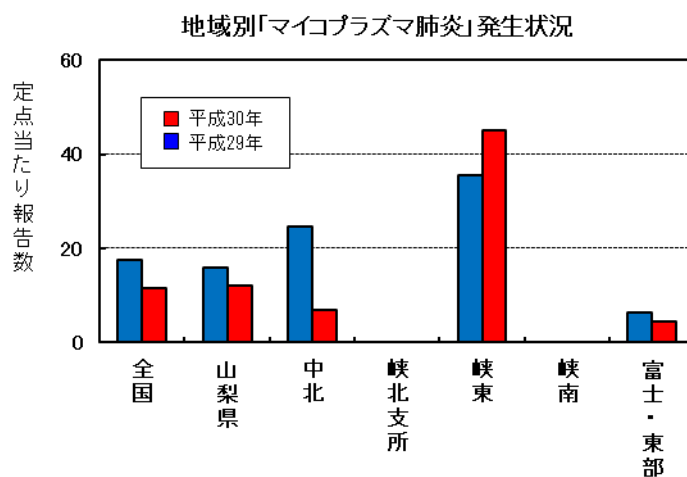
週別「マイコプラズマ肺炎」発生状況



### 《地域別発生状況》

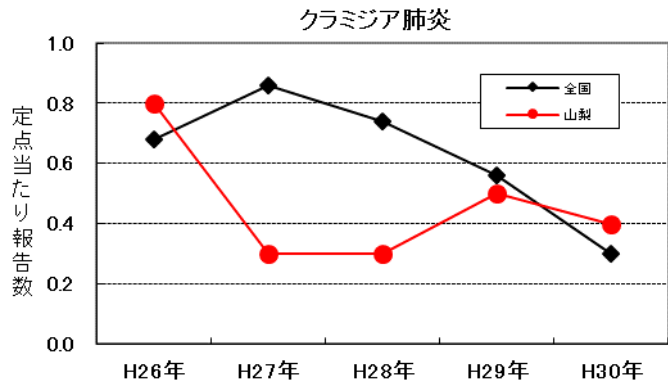
定点当たり報告数は峡東保健所管内（45.00）が最も多く、前年よりも増加した。

中北保健所峡北支所管内、峡南保健所管内では報告がなかった。



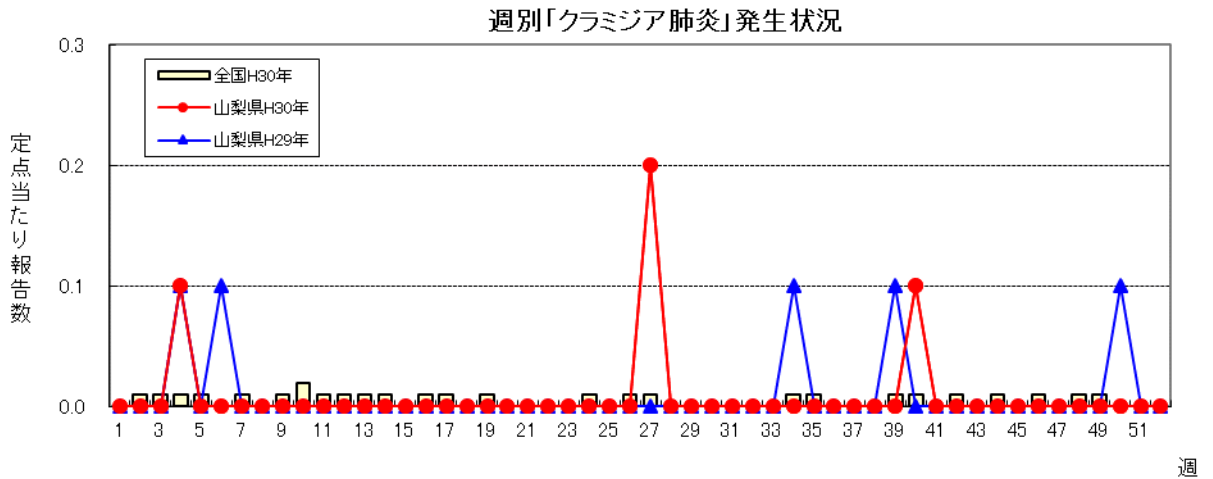
○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

定点医療機関から4例（定点当たり報告数0.40）の報告があり、前年（0.50）よりも1例減少した。



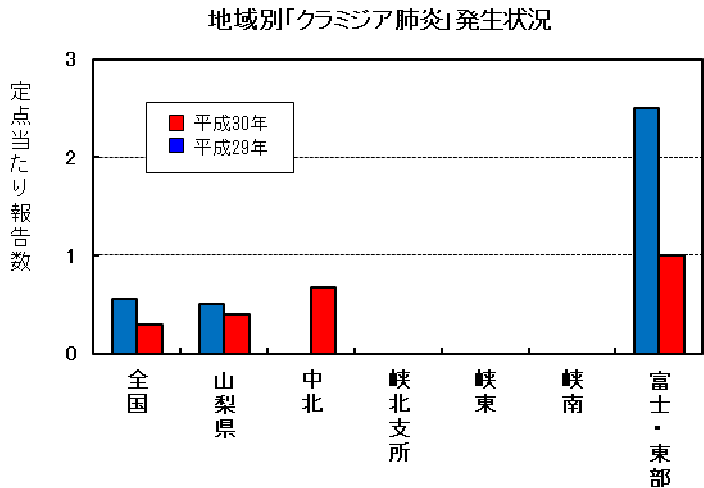
《週別発生状況》

第4週、40週に各1例、第27週に2例の報告があった。



《地域別発生状況》

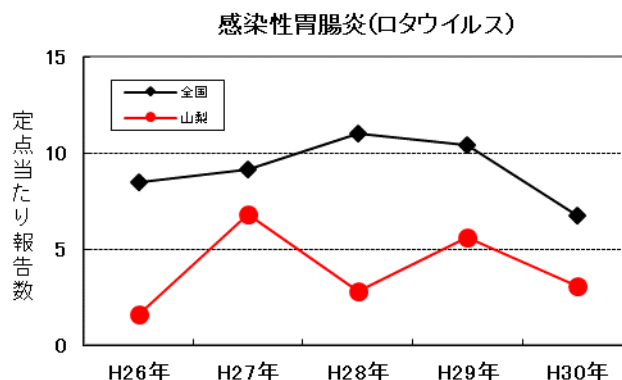
報告例は中北保健所管内（0.67）、富士・東部保健所管内（1.00）であった。



## ○感染性胃腸炎（ロタウイルス）

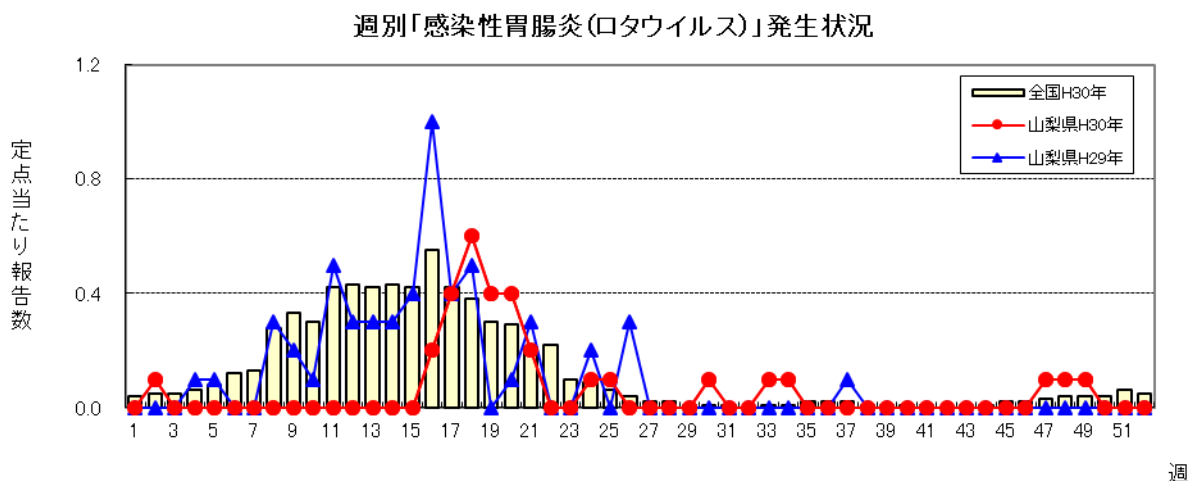
定点医療機関から31例（定点当たり報告数3.10）の報告があり、前年（56例）より減少した。

最近5年間は全国よりも少ない報告数で推移している。



### 《週別発生状況》

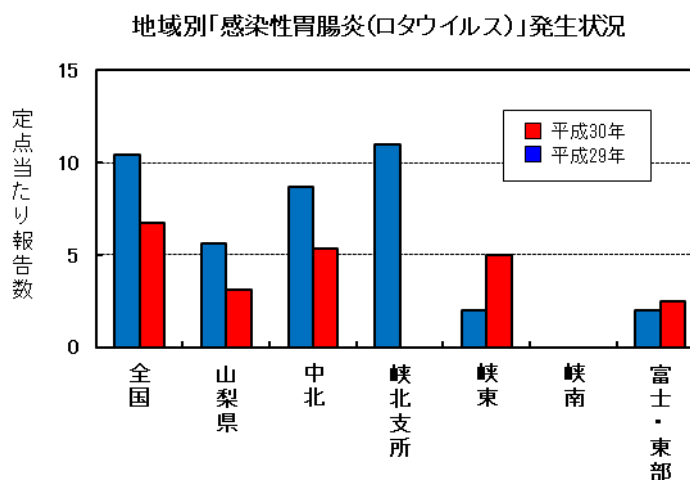
第18週（0.60）をピークとする春季の流行がみられた。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（5.33）であった。

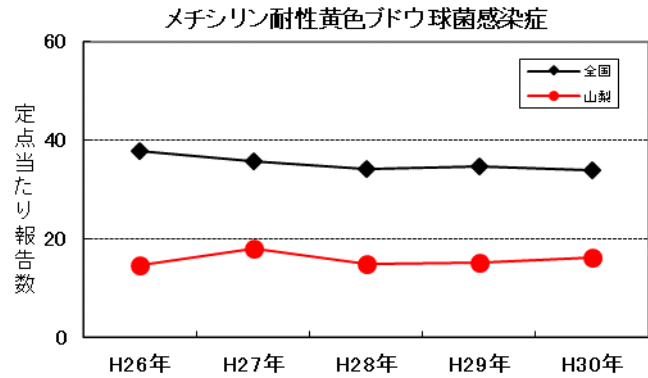
前年に最も報告数が多かった中北保健所峡北支所管内、峡南保健所管内は報告がなかった。



## ○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

定点医療機関から 161 例（定点当たり報告数 16.10）の報告があり、前年（152 例）よりもわずかに増加した。

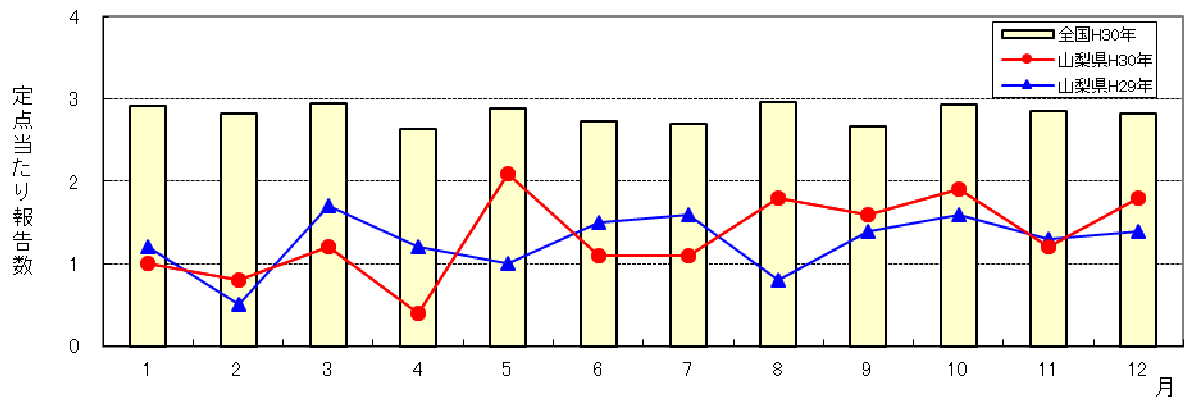
全国、本県ともに、ほぼ横ばいに推移している。



### 《月別発生状況》

年間を通して報告があつたが、全国よりも少ない報告数であつた。

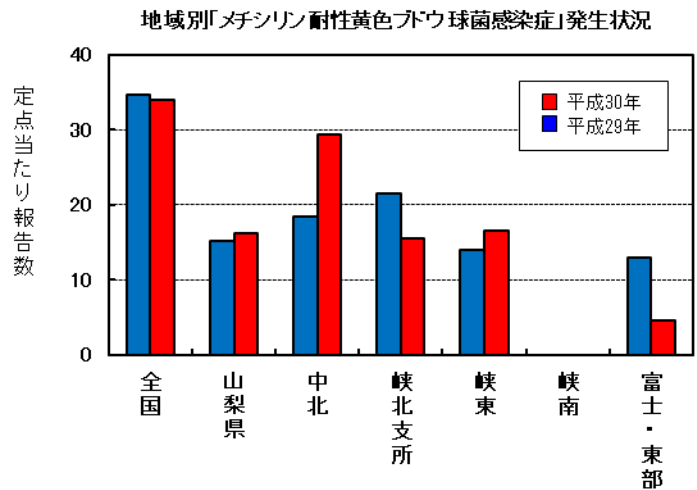
月別「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」発生状況



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かつたのは中北保健所管内（29.33）であつた。

前年と同様に峡南保健所管内では報告がなかつた。

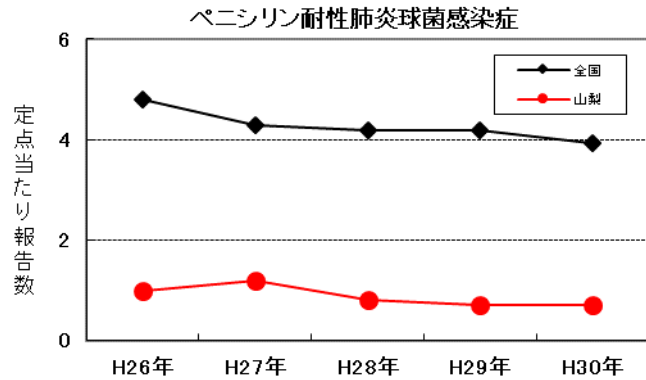




## ○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

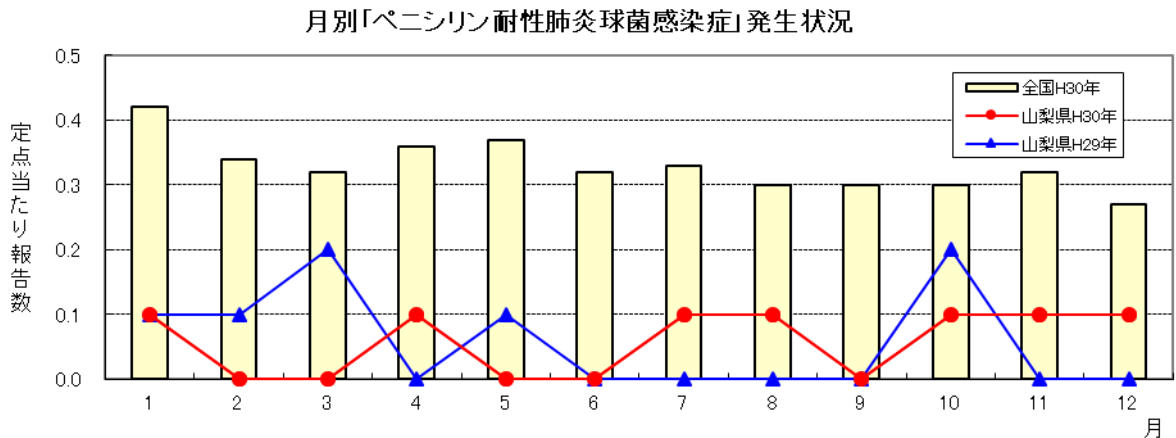
定点医療機関から7例(定点当たり報告数0.70)の報告があり、前年と同数であった。

全国、本県ともにほぼ横ばいで推移している。



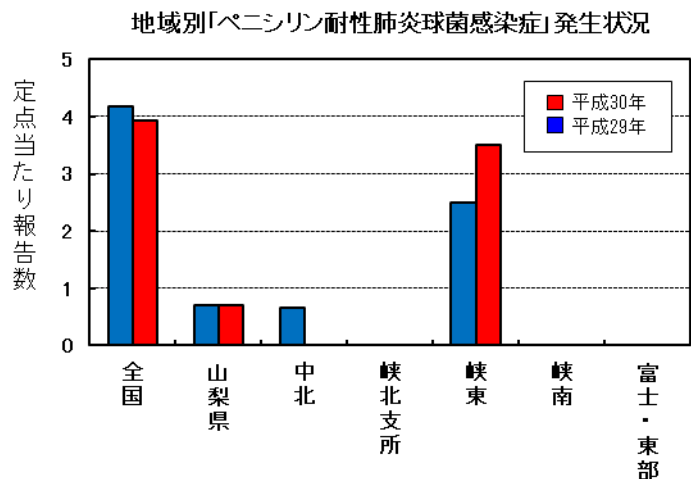
### 《月別発生状況》

2月、3月、5月、6月、9月を除き、各1例の報告があった。



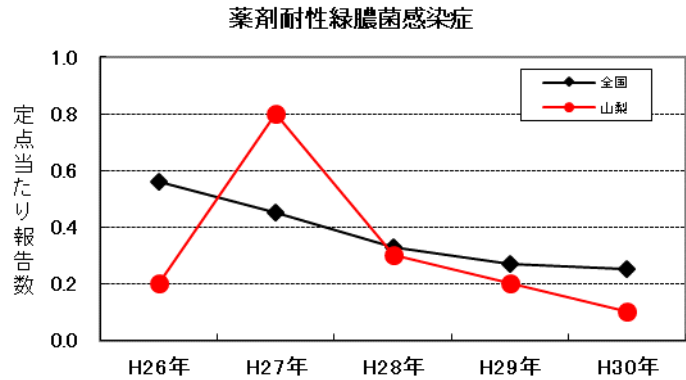
### 《地域別発生状況》

報告例は峡東保健所管内(3.50)のみであり、発生地域に偏りがみられた。



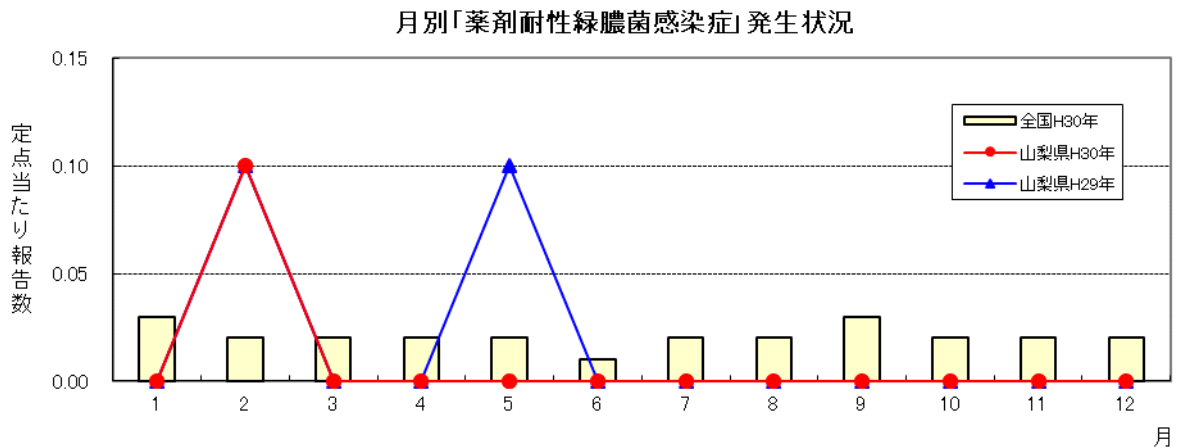
## ○ 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点医療機関から1例(定点当たり報告数0.10)の報告があり、前年(2例)より1例減少した。全国でも減少傾向である。



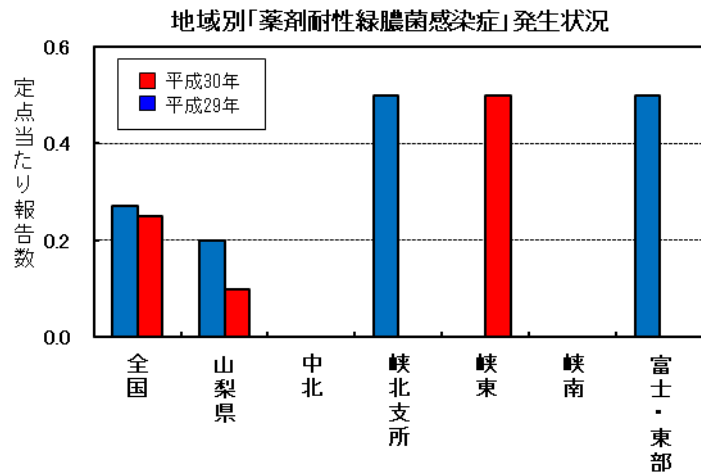
### 《月別発生状況》

2月に1例の報告があった。



### 《地域別発生状況》

報告例は峡東保健所管内(0.50)であった。



### Ⅲ 病原微生物檢出狀況



## 1 ウイルス検出状況

県内 19 カ所の病原体定点（医療機関）及び集団発生事例において採取された 734 検体について PCR 法と細胞分離法により検査を実施し、370 件（50.4%）のウイルスを検出した。

最も多く検出されたのはインフルエンザウイルス 197 件で全体の 53.2%を占め、次いでノロウイルス 114 件（30.8%）であった。他にサポウイルス 11 件（3.0%）、エンテロウイルス、RS ウイルス 8 件（2.2%）、風しんウイルス 6 件（1.6%）、ヒトヘルペスウイルス、ロタウイルス、A 型肝炎ウイルス、アデノウイルス（下痢症ウイルス）、アストロウイルス各 3 件（0.8%）、アデノウイルス（呼吸器ウイルス）、麻しんウイルス、ヒトパレコウイルス、E 型肝炎ウイルス各 2 件（0.5%）、ヒトメタニューモウイルス、ムンプスウイルス、デングウイルス各 1 件（0.3%）が検出された。

インフルエンザウイルスの型別検出状況は、B 型山形系統が 83 件（42.1%）、A(H3)香港型が 74 件（37.6%）、A(H1)pdm09 が 39 件（19.8%）、B 型ビクトリア系統が 1 件（0.5%）であった。患者報告数のピークとなった第 3 週から 6 週（1 月中旬から 2 月上旬）は B 型山形系統、A(H3)香港型、A(H1)pdm09 が流行の主流であると推定された。また、A(H3)香港型が 11 月、12 月、A(H1)pdm09 が 12 月に検出されたことから、2018/2019 シーズン前半はこの型が流行の主流であると推定された。

ノロウイルスの型別検出状況は、ノロウイルス GⅡが 111 件（97.4%）、ノロウイルス GⅠが 3 件（2.6%）で、1 月から 4 月および 12 月に多く検出された。集団発生事例から検出されたノロウイルスの遺伝子型別結果は別表のとおりであった。

### 月別ウイルス検出状況

検出ウイルス	検出ウイルス	検出月												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザウイルス <sup>(*2)</sup>	A(H1)pdm09	21	10	2	1	2	-	-	-	-	-	-	3	39
	A(H3)香港型	25	9	15	15	3	-	-	-	-	-	1	6	74
	B型ビクトリア系統	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	B型山形系統	27	30	23	3	-	-	-	-	-	-	-	-	83
エンテロウイルス <sup>(*1)</sup>	コクサッキーウイルスA4型	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	5
	コクサッキーウイルスA10型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
	コクサッキーウイルスB2型	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
アデノウイルス(呼吸器ウイルス) <sup>(*1)</sup>	1型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	2型	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヒトヘルペスウイルス <sup>(*1)</sup>	6型 VariantB	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	7型	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヒトメタニューモウイルス <sup>(*1)</sup>		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
麻しんウイルス <sup>(*2)</sup>	D8型	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	型別不能	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
風しんウイルス <sup>(*2)</sup>	1E型	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	1	5
	型別不能	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
RSウイルス <sup>(*1)</sup>	サブクラスA	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
	サブクラスB	1	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	6
ムンプスウイルス <sup>(*1)</sup>	B型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
ヒトパレコウイルス <sup>(*1)</sup>	1型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	6型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
デングウイルス <sup>(*2)</sup>	1型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
ノロウイルス <sup>(*2)</sup>	GⅠ	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	GⅡ	18	39	-	21	8	5	-	-	1	-	-	19	111
ロタウイルス <sup>(*1)</sup>	A群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
A型肝炎ウイルス <sup>(*2)</sup>	1A型	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	3
E型肝炎ウイルス <sup>(*1)</sup>		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
サポウイルス <sup>(*1)</sup>		-	-	-	-	-	10	1	-	-	-	-	-	11
アデノウイルス(下痢症ウイルス) <sup>(*1)</sup>		-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3
アストロウイルス <sup>(*1)</sup>		-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
計		95	94	42	45	14	16	10	5	5	7	6	31	370

(\*1)PCR法で遺伝子検出 (\*2)リアルタイムPCR法で遺伝子検出  
ノロウイルスについては集団発生を含む

## 集団発生事例におけるノロウイルス遺伝子型別結果

検出月	事例数	遺伝子型
1月	4	G II.4 2012変異株
2月	4	G II.2
4月	1	G I.2 / G I.7 / G II.2
	2	G II.2
	1	G II.17
5月	2	G II.2
6月	1	G II.2
9月	1	G II.2
12月	4	G II.3

## 2 細菌検出状況

三類感染症の患者から分離された菌株について、同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

検出月	疾病名	検出菌	検出数
4月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O8:H19 (Stx2)	1
5月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx2)	1
7月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O26:H11 (Stx1)	1
8月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O121:H19 (Stx2)	1
		EHEC O157:H7 (Stx1)	1
		EHEC O157:H7 (Stx1,2)	3
		EHEC O157:HNM (Stx2)	1
9月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:HNM (Stx1,2)	1
10月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx1,2)	4
	細菌性赤痢	<i>Shigella sonnei</i>	3

EHEC : 腸管出血性大腸菌

HNM : 非運動性

## IV 參考資料





1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

平成30年4月1日現在

	患者定点							病原体定点			医療機関名称	主たる診療科	郵便番号	住所		
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ	指	小					眼	基
中北	○						○		○				隈部小児科医院	小	400-0855	甲府市中小河原1-14-3
	○						○		○				今井小児科	小	400-0854	甲府市中小河原町1589
	○						○	○					小松小児科医院	小	400-0062	甲府市池田1-11-7
	○						○						里吉内科クリニック	内	400-0822	甲府市里吉4-15-17
	○						○						横田内科小児科医院	小	400-0041	甲府市上石田2-30-44
	○						○						中島医院	小	400-0105	甲斐市下今井88-1
	○						○						森川医院	小	409-3863	中巨摩郡昭和町河東中島1903
	○						○						西野内科医院	小	409-3845	中央市山之神2389-1
		○					○						竹居医院	内	400-0007	甲府市美咲1-11-15
			○				○						桜林内科消化器科医院	内	400-0058	甲府市宮原町1336-1
			○				○						内科小児科小野医院	内	400-0065	甲府市真川2-2-11
			○				○						竜王共立診療所	内	400-0113	甲斐市富竹新田231-1
			○				○						大沢医院	内	400-0125	甲斐市長塚115-11
			○				○						井上内科小児科医院	内	400-0025	甲府市朝日1-4-12
				○							○		佐々木眼科医院	眼	400-0031	甲府市丸の内2-25-8
				○									二宮眼科医院	眼	400-0008	甲府市緑が丘1-5-14
				○									フルヤ眼科医院	眼	409-3841	中央市布施1990ウエルピア1F
					○								梶山クリニック	産・婦	400-0047	甲府市德行1-3-20
					○								鈴木・野村泌尿器科医院	泌	400-0026	甲府市塩部1-11-12
					○								竜王レディースクリニック	産・婦	400-0115	甲斐市篠原2199
					○	○					○	市立甲府病院	他	400-0832	甲府市増坪町366	
					○	○					○	地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院	他	400-8506	甲府市富士見1-1-1	
					○	○					○	山梨大学医学部附属病院	他	409-3898	中央市下河東1110	
						○						古屋クリニック	内	409-3845	中央市山之神1533-21	
	8	6	14	3	3	3	18	1	2	1	3					
峡北支所	○						○	○					三井医院	小	407-0024	韮崎市本町1-11-8
	○						○						にこにこクリニック こでら小児科	小	407-0033	韮崎市龍岡町下條南割1045
	○						○						高畑内科小児科医院	小	400-0422	南アルプス市飯野2753
	○						○						アルプスこどもクリニック	小	400-0304	南アルプス市吉田864-1
	○						○						いいづかこどもクリニック	小	408-0034	北杜市長坂町大八田3874-1
		○					○						北杜市立白州診療所	内	408-0315	北杜市白州町白須1341
		○					○						本町クリニック	内	407-0024	韮崎市本町2-19-3
		○					○						志村内科医院	内	400-0422	南アルプス市荊沢410
			○				○						千野眼科医院	眼	407-0024	韮崎市本町1-5-26
			○				○						堀内眼科	眼	400-0306	南アルプス市小笠原386
				○			○						まえざわクリニック	泌	407-0015	韮崎市若宮2-14-1
					○		○						女性クリニック秋山医院	眼	400-0221	南アルプス市在家塚155
						○	○					○	巨摩共立病院	他	400-0398	南アルプス市桃園340
						○	○					○	北杜市立甲陽病院	他	408-0034	北杜市長坂町大八田3954
	5	3	8	2	2	2	10	1	0	0	2					

	患者定点							病原体定点				医療機関名称	主たる診療科	郵便番号	住所
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ指	小	眼	基				
峡東	○		○				○					篠原医院	内・小	406-0805	笛吹市御坂町栗合168
	○		○				○					三枝クリニック	内・小	406-0043	笛吹市石和町河内37-2
	○		○				○					あめみや医院	内・小	404-0046	甲州市塩山上井尻1419
	○		○				○	○				池田内科小児科医院	内・小	409-1300	甲州市勝沼町勝沼2961
			○	○			○					中央内科クリニック	内	405-0018	山梨市上神内川47
			○	○			○					飯島医院	内	405-0006	山梨市小原西5
			○	○			○					黒沢内科	内	406-0031	笛吹市石和町市部716-5
				○								古川眼科医院	眼	405-0006	山梨市小原西196-2
				○								古屋眼科	眼	406-0031	笛吹市石和町市部822-41
					○							加納岩総合病院	他	405-0018	山梨市上神内川1309
					○							長坂クリニック	産・婦	406-0033	笛吹市石和町小石和2645
					○	○				○	山梨厚生病院	他	405-0033	山梨市落合860	
					○	○				○	甲州リハビリテーション病院	他	406-0032	笛吹市石和町四日市場2031	
	4	3	7	2	2	2	9	1	0	0	2				
峡南	○		○				○	○				溝部医院	内	409-3600	西八代郡市川三郷町市川大門1235
	○		○				○					南部町国民健康保険診療所	内	409-2212	南巨摩郡南部町南部8050
			○	○			○					身延町早川町国民健康保険病院一部事務組合立飯富病院	他	409-3423	南巨摩郡身延町飯富1628
						○	○				○	峡南医療センター企業団富士川病院	他	400-0601	南巨摩郡富士川町飯沢340-1
	2	1	3	0	0	1	4	1	0	0	1				
富士・東部	○		○				○	○				吉田医院	小	403-0005	富士吉田市中曾根1-5-10
	○		○				○		○			武井クリニック	小	402-0025	都留市法能669
	○		○				○					都留市立病院	他	402-0056	都留市つる5-1-55
	○		○				○					つききこどもクリニック	小	403-0004	富士吉田市下吉田8-18-29
	○		○				○					いしはらクリニック	小	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津584-1
			○	○			○					堀田医院	内	401-0013	大月市大月1-5-20
			○	○			○					うえのクリニック	内	409-0126	上野原市モアしおつ3-22-5
			○	○			○					しまだ医院	内	403-0022	南都留郡西桂町小沼1710-1
			○	○			○					富士ニコニコクリニック	内	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1287
				○								小林眼科医院	眼	403-0017	富士吉田市新西原1-7-1
				○								野村眼科医院	眼	402-0005	都留市四日市場8-6
					○							武者医院	産・婦	401-0013	大月市大月1-15-18
					○							渡辺医院	産・婦	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1496
						○	○				○	富士吉田市立病院	他	403-0005	富士吉田市上吉田6530
					○	○				○	大月市立中央病院	他	401-0015	大月市大月町花咲1225	
	5	4	9	2	2	2	11	1	1	0	2				
合計	24	17	41	9	9	10	52	5	3	1	10				

【患者定点】

- 小：小児科定点
- 内：内科定点
- イ：インフルエンザ定点
- 眼：眼科定点
- S：性感染症定点
- 基：基幹定点の病院
- 疑：疑似症定点

【病原体定点】

- イ指：インフルエンザ病原体定点(指定提出機関)
- 小：小児科病原体定点
- 基：基幹病原体定点
- 眼：眼科病原体定点

## 2 全数把握対象感染症の報告数

疾 病	報 告 数		疾 病	報 告 数	
	全 国	山 梨 県		全 国	山 梨 県
<b>1類感染症</b>			日本紅斑熱	305	-
エボラ出血熱	-	-	日本脳炎	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-
痘そう	-	-	Bウイルス病	-	-
南米出血熱*1	-	-	鼻疽*1	-	-
ペスト	-	-	ブルセラ症	3	-
マールブルグ病	-	-	ベネズエラウマ脳炎*1	-	-
ラッサ熱	-	-	ヘンドラウイルス感染症*1	-	-
<b>2類感染症</b>			発しんチフス	-	-
急性灰白髄炎	-	-	ボツリヌス症	2	-
結核*1	22,467	114	マラリア	50	1
ジフテリア	-	-	野兎病	-	-
重症急性呼吸器症候群*2*3 (SARSコロナウイルスに限る)	-	-	ライム病	13	-
中東呼吸器候群*12 (MERSコロナウイルスに限る)	-	-	リッサウイルス感染症	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1)*5	-	-	リフトバレー熱*1	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9)*12	-	-	類鼻疽*1	2	-
<b>3類感染症</b>			レジオネラ症	2,141	18
コレラ*2	4	-	レプトスピラ症	32	-
細菌性赤痢*2	268	3	ロッキーマウンテン紅斑熱*1	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	3,851	14	<b>5類感染症</b>		
腸チフス*2	35	-	アメーバ赤痢	842	6
パラチフス*2	23	-	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	277	1
<b>4類感染症</b>			カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症*11	2,289	4
E型肝炎	446	2	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)*15	141	-
ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	-	-	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、 ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)*3	678	8
A型肝炎	926	3	クリプトスポリジウム症	25	-
エキノコックス症	14	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	220	3
黄熱	-	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	693	2
オウム病	6	-	後天性免疫不全症候群	1,302	-
オムスク出血熱*1	-	-	ジアルジア症	68	-
回帰熱	6	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症*8	488	2
キャサスル森林病*1	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症*8	37	1
Q熱	3	-	侵襲性肺炎球菌感染症*8	3,328	13
狂犬病	-	-	水痘(入院例)*11	466	7
コクシジオイデス症	2	-	先天性風しん症候群	-	-
サル痘	-	-	梅毒	7,001	17
ジカウイルス感染症*13	-	-	播種性クリプトコックス症*11	181	-
重症熱性血小板減少症候群*7 (SFTSウイルスに限る)	77	-	破傷風	133	2
腎症候性出血熱	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
西部ウマ脳炎*1	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	80	-
ダニ媒介脳炎*1	1	-	百日咳*14	12,104	152
炭疽	-	-	風しん*4	2,937	13
チクングニア熱*6	4	-	麻しん*4	279	2
つつが虫病	455	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症*11	24	1
デング熱	201	1	<b>新型インフルエンザ等感染症*5</b>		
東部ウマ脳炎*1	-	-	新型インフルエンザ	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)*10	-	-	再興型インフルエンザ	-	-
ニパウイルス感染症	-	-			

## 2-1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の改正に伴う変更の経緯

平成19年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律改正に伴う変更点

\*<sup>1</sup> : 新規追加された疾病    \*<sup>2</sup> : 類型変更された疾病    \*<sup>3</sup> : 名称変更された疾病

平成20年1月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

\*<sup>4</sup> : 定点把握から全数把握に変更された疾病

平成20年5月12日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

\*<sup>5</sup> : 新規追加された疾病

平成23年2月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

\*<sup>6</sup> : 新規追加された疾病

平成25年3月4日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

\*<sup>7</sup> : 新規追加された疾病

平成25年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>8</sup> : 新規追加された疾病

平成25年5月6日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

\*<sup>9</sup> : 新規追加された疾病    \*<sup>10</sup> 名称変更された疾病

平成26年9月19日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>11</sup> : 新規追加された疾病

平成26年11月21日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

\*<sup>12</sup> : 類型変更された疾病(施行は平成27年1月21日)

平成28年3月30日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>13</sup> : 新規追加された疾病

平成29年12月15日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

\*<sup>14</sup> : 定点把握から全数把握に変更された疾病(施行は平成30年1月1日)

平成30年3月14日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

\*<sup>15</sup> : 新規追加された疾病(施行は平成30年5月1日)

### 3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数（平成30年）

疾 病	全 国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり 報告数	報告数	定点当たり 報告数
RSウイルス感染症	120,743	38.29	587	24.46
咽頭結膜熱	73,959	23.46	271	11.29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	358,376	113.66	2,019	84.13
感染性胃腸炎	850,138	269.63	4,987	207.79
水 痘	55,480	17.60	258	10.75
手足口病	122,725	38.92	558	23.25
伝染性紅斑	49,174	15.60	432	18.00
突発性発しん	71,177	22.57	380	15.83
ヘルパンギーナ	99,304	31.50	785	32.71
流行性耳下腺炎	23,684	7.51	162	6.75
小児科定点(週報) 計	1,824,760	578.74	10,439	434.96
インフルエンザ	1,898,941	384.40	15,736	383.80
インフルエンザ定点(週報) 計	1,898,941	384.40	15,736	383.80
急性出血性結膜炎	560	0.80	12	1.33
流行性角結膜炎	30,631	44.01	407	45.22
眼科定点(週報) 計	31,191	44.81	419	46.55
性器クラミジア感染症	25,467	25.88	191	21.22
性器ヘルペスウイルス感染症	9,128	9.28	115	12.78
尖圭コンジローマ	5,609	5.70	12	1.33
淋菌感染症	8,125	8.26	51	5.67
STD定点(月報) 計	48,329	49.12	369	41.00
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因 とした場合を除く)	507	1.06	10	1.00
無菌性髄膜炎	806	1.68	13	1.30
マイコプラズマ肺炎	5,597	11.66	120	12.00
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	144	0.30	4	0.40
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3,234	6.74	31	3.10
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16,311	33.91	161	16.10
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1,895	3.94	7	0.70
薬剤耐性緑膿菌感染症	121	0.25	1	0.10
基幹定点(週報、月報) 計	28,615	59.54	347	34.70

#### 4 前年（平成29年）との定点当たり報告数の比較

疾 病	全 国			山 梨 県			山梨県/全国	
	H29年 2017(A)	H30年 2018(B)	(B)/(A)	H29年 2017(C)	H30年 2018(D)	(D)/(C)	H29年 (C)/(A)	H30年 (D)/(B)
RSウイルス感染症	44.21	38.29	0.87	26.71	24.46	0.92	0.60	0.64
咽頭結膜熱	29.23	23.46	0.80	41.67	11.29	0.27	1.43	0.48
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	116.35	113.66	0.98	120.71	84.13	0.70	1.04	0.74
感染性胃腸炎	276.19	269.63	0.98	253.67	207.79	0.82	0.92	0.77
水痘	19.06	17.60	0.92	10.63	10.75	1.01	0.56	0.61
手足口病	113.65	38.92	0.34	104.29	23.25	0.22	0.92	0.60
伝染性紅斑	3.94	15.60	3.96	2.38	18.00	7.56	0.60	1.15
突発性発しん	23.22	22.57	0.97	14.46	15.83	1.09	0.62	0.70
百日咳	0.53	-	-	4.58	-	-	8.64	-
ヘルパンギーナ	27.26	31.50	1.16	12.71	32.71	2.57	0.47	1.04
流行性耳下腺炎	24.67	7.51	0.30	27.92	6.75	0.24	1.13	0.90
小児科定点 計	678.31	578.74	0.85	619.73	434.96	0.70	0.91	0.75
インフルエンザ	326.66	384.40	1.18	299.68	383.80	1.28	0.92	1.00
インフルエンザ定点 計	326.66	384.40	1.18	299.68	383.80	1.28	0.92	1.00
急性出血性結膜炎	0.63	0.80	1.27	0.33	1.33	4.03	0.52	1.66
流行性角結膜炎	38.47	44.01	1.14	40.33	45.22	1.12	1.05	1.03
眼科定点 計	39.10	44.81	1.15	40.66	46.55	1.14	1.04	1.04
性器クラミジア感染症	25.13	25.88	1.03	17.00	21.22	1.25	0.68	0.82
性器ヘルペスウイルス 感染症	9.42	9.28	0.99	13.33	12.78	0.96	1.42	1.38
尖圭コンジローマ	5.50	5.70	1.04	1.67	1.33	0.80	0.30	0.23
淋菌感染症	8.21	8.26	1.01	6.11	5.67	0.93	0.74	0.69
STD定点 計	48.26	49.12	1.02	38.11	41.00	1.08	0.79	0.83
細菌性髄膜炎	1.10	1.06	0.96	1.00	1.00	1.00	0.91	0.94
無菌性髄膜炎	2.00	1.68	0.84	1.10	1.30	1.18	0.55	0.77
マイコプラズマ肺炎	17.53	11.66	0.67	15.80	12.00	0.76	0.90	1.03
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.56	0.30	0.54	0.50	0.40	0.80	0.89	1.33
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	10.43	6.74	0.65	5.60	3.10	0.55	0.54	0.46
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	34.55	33.91	0.98	15.20	16.10	1.06	0.44	0.47
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	4.18	3.94	0.94	0.70	0.70	1.00	0.17	0.18
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.27	0.25	0.93	0.20	0.10	0.50	0.74	0.40
基幹定点 計	70.62	59.54	0.84	40.10	34.70	0.87	0.57	0.58

## 5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（平成26年～30年）

疾 病	全国					山梨県				
	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016	H29年 2017	H30年 2018	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016	H29年 2017	H30年 2018
RSウイルス感染症	31.93	38.16	33.18	44.21	38.29	14.88	22.67	23.79	26.71	24.46
咽頭結膜熱	25.12	22.93	21.38	29.23	23.46	17.33	8.17	18.00	41.67	11.29
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	96.78	127.55	116.54	116.35	113.66	66.88	117.79	113.00	120.71	84.13
感染性胃腸炎	319.68	314.02	353.87	276.19	269.63	264.17	251.08	294.63	253.67	207.79
水痘	50.15	24.67	20.72	19.06	17.60	24.50	14.92	14.96	10.63	10.75
手足口病	26.62	121.34	21.91	113.65	38.92	9.96	73.58	22.83	104.29	23.25
伝染性紅斑	10.29	31.32	16.29	3.94	15.60	1.50	30.50	22.71	2.38	18.00
突発性発しん	27.99	27.00	24.17	23.22	22.57	17.42	17.54	16.04	14.46	15.83
百日咳	0.66	0.85	0.95	0.53	-	0.25	0.17	1.13	4.58	-
ヘルパンギーナ	43.59	31.22	40.99	27.26	31.50	46.38	39.58	46.13	12.71	32.71
流行性耳下腺炎	14.74	25.76	50.39	24.67	7.51	4.17	3.96	24.83	27.92	6.75
小児科定点 計	647.55	764.82	700.39	678.31	578.74	467.44	579.96	598.05	619.73	434.96
インフルエンザ	354.44	237.42	354.58	326.66	384.40	294.25	220.13	355.41	299.68	383.80
インフルエンザ定点 計	354.44	237.42	354.58	326.66	384.40	294.25	220.13	355.41	299.68	383.80
急性出血性結膜炎	0.61	0.72	0.58	0.63	0.80	0.22	0.11	0.33	0.33	1.33
流行性角結膜炎	29.62	36.44	37.72	38.47	44.01	18.78	21.78	19.67	40.33	45.22
眼科定点 計	30.23	37.16	38.30	39.10	44.81	19.00	21.89	20.00	40.66	46.55
性器クラミジア感染症	25.60	24.95	24.77	25.13	25.88	12.44	13.89	18.22	17.00	21.22
性器ヘルペスウイルス 感染症	8.87	9.16	9.31	9.42	9.28	10.11	9.78	9.33	13.33	12.78
尖圭コンジローマ	5.83	5.92	5.82	5.50	5.70	2.56	2.44	2.11	1.67	1.33
淋菌感染症	10.06	8.88	8.42	8.21	8.26	1.00	1.89	2.89	6.11	5.67
STD定点 計	50.36	48.91	48.32	48.26	49.12	26.11	28.00	32.55	38.11	41.00
細菌性髄膜炎	0.83	0.95	1.03	1.10	1.06	0.20	0.70	0.60	1.00	1.00
無菌性髄膜炎	1.90	2.24	2.89	2.00	1.68	0.30	5.80	2.20	1.10	1.30
マイコプラズマ肺炎	13.63	21.73	41.34	17.53	11.66	2.30	12.00	28.80	15.80	12.00
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.68	0.86	0.74	0.56	0.30	0.80	0.30	0.30	0.50	0.40
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	8.48	9.12	11.04	10.43	6.74	1.60	6.80	2.80	5.60	3.10
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	37.82	35.61	34.10	34.55	33.91	14.70	18.00	14.80	15.20	16.10
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	4.81	4.29	4.18	4.18	3.94	1.00	1.20	0.80	0.70	0.70
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.56	0.45	0.33	0.27	0.25	0.20	0.80	0.30	0.20	0.10
薬剤耐性アシネトバク ター感染症	0.01	-	-	-	-	0.00	-	-	-	-
基幹定点 計	68.72	75.25	95.65	70.62	59.54	21.10	45.60	50.60	40.10	34.70

## 6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

平成 30 年

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	1/1 ~ 1/7	19	5/7 ~ 5/13	37	9/10 ~ 9/16
2	1/8 ~ 1/14	20	5/14 ~ 5/20	38	9/17 ~ 9/23
3	1/15 ~ 1/21	21	5/21 ~ 5/27	39	9/24 ~ 9/30
4	1/22 ~ 1/28	22	5/28 ~ 6/3	40	10/1 ~ 10/7
5	1/29 ~ 2/4	23	6/4 ~ 6/10	41	10/8 ~ 10/14
6	2/5 ~ 2/11	24	6/11 ~ 6/17	42	10/15 ~ 10/21
7	2/12 ~ 2/18	25	6/18 ~ 6/24	43	10/22 ~ 10/28
8	2/19 ~ 2/25	26	6/25 ~ 7/1	44	10/29 ~ 11/4
9	2/26 ~ 3/4	27	7/2 ~ 7/8	45	11/5 ~ 11/11
10	3/5 ~ 3/11	28	7/9 ~ 7/15	46	11/12 ~ 11/18
11	3/12 ~ 3/18	29	7/16 ~ 7/22	47	11/19 ~ 11/25
12	3/19 ~ 3/25	30	7/23 ~ 7/29	48	11/26 ~ 12/2
13	3/26 ~ 4/1	31	7/30 ~ 8/5	49	12/3 ~ 12/9
14	4/2 ~ 4/8	32	8/6 ~ 8/12	50	12/10 ~ 12/16
15	4/9 ~ 4/15	33	8/13 ~ 8/19	51	12/17 ~ 12/23
16	4/16 ~ 4/22	34	8/20 ~ 8/26	52	12/24 ~ 12/30
17	4/23 ~ 4/29	35	8/27 ~ 9/2		
18	4/30 ~ 5/6	36	9/3 ~ 9/9		



## <山梨県感染症情報センターホームページ>

The screenshot shows the homepage of the Yamanashi Prefectural Infectious Disease Surveillance Center. At the top, there is a navigation bar with the Yamanashi Prefecture logo and the text 'Yamanashi Prefecture'. Below this is a search bar and a language selection menu. The main content area features a large banner with the center's name in both Japanese and English: '山梨県 感染症情報センター' and 'Yamanashi Prefectural Infectious Disease Surveillance Center'. Below the banner, there is a section titled '山梨県内の感染症の発生状況や感染症に関する各種情報を掲載しています' (We provide various information about the occurrence of infectious diseases in Yamanashi Prefecture and related information). This section contains several buttons for different types of information: '感染症発生動向週報・月報' (Weekly/Monthly Infectious Disease Occurrence Trends), '感染症届出基準' (Infectious Disease Reporting Standards), '報道発表資料' (Press Release Materials), '感染症の基礎知識' (Basic Knowledge of Infectious Diseases), '国からの通知関係' (Notification Relationship from the National Government), '病原体検出状況' (Pathogen Detection Status), and '学校・保育園等欠席状況' (Absence Status in Schools, Nurseries, etc.). On the right side, there is a sidebar titled '衛生環境研究所' (Institute of Hygiene and Environment) with a list of links to various resources, including the center's main page, event information for 2018, research reports, and various scientific fields like water, food, and air quality. At the bottom left, there is a section for '新着トピックス' (New Topics).

山梨県感染症情報センターホームページでは県内の感染症の発生状況や感染症に関する最新の情報を掲載しています。

(URL) <https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/kansensyosenta.html>

感染症発生動向調査事業報告書  
—平成 30 年版—

令和元年 8 月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター  
(山梨県衛生環境研究所)

〒400-0027 山梨県甲府市富士見 1-7-31

電話 055-253-6721

FAX 055-253-5637

E-mail eikanken@pref.yamanashi.lg.jp

<https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/kansensyosenta.html>